



平成30年度

こうち子どもファンド 事業報告書



【目次】

1	平成 30 年度事業スケジュール	1
2	助成を決定する審査員等	2
3	公開審査会	3
4	助成団体の活動	5
5	助成団体活動発表会	6
6	平成 30 年度高知市子どもまちづくり基金実績	25
7	今後に向けて	26

【資料編】

- ・高知市子どもまちづくり基金条例
- ・高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱
- ・平成 30 年度活動発表会アンケート結果
- ・「こどもファンド通信」第 25 号（平成 30 年 5 月発行）
- ・「こどもファンド通信」第 26 号（平成 30 年 8 月発行）
- ・「こどもファンド通信」第 27 号（平成 31 年 2 月発行）
- ・募集案内リーフレット（平成 31 年度事業募集及び第 8 期こども審査員募集）

ごあいさつ

子どもたちが自ら高知のまちについて関心を持つきっかけとなり、「高知をもっと好きになってもらいたい」「高知で生まれ育ったことを誇りに思うように育ってもらいたい」という思いで始めた「こうちこどもファンド」は、市民の皆様のご協力や、企業・団体・個人の皆様のご寄附などにより、制度開始から7年目を迎えることができました。子どもたちが自主的に行うまちづくりに関する注目は年々高まっており、平成30年10月から平成31年3月までの間には、高知新聞の「読もっかこども高知新聞」のコーナーで子どもたちの活動に関する特集記事を毎月1回ずつ掲載していただくなど、様々なご支援をいただいております。

平成30年度は応募いただきました全7グループに助成を行い、子どもたちは防災・清掃・食・イベントなど自由な発想で活動に取り組まれました。近年、発生が予想される南海トラフ地震に備え、防災活動を盛り込んだ提案が多くなっていますが、子どもたちも自分の住んでいる地域の現状をよく勉強し、それぞれの活動に活かすことで、自分たちのまちをより住みよいまちにしたいという思いが伝わってまいります。

公開審査会で助成が決定してから約8か月間の活動の中で、子どもたちは仲間と悩み議論を重ね、地域内外の方たちとの連携や交流を行うなど、普段の生活では味わえない様々な経験を積んできたと思います。この活動をきっかけとして、まちづくり活動の輪をさらに広げていくことができるように、今後も子どもたちの活動を支援してまいりたいと考えております。

最後になりますが、まちづくり活動に取り組んだ子どもたちの今後の活躍に期待するとともに、制度創設から携わっていただいております卯月先生、また制度の運営に関しまして重要な役割を担っていただいておりますこども審査員及び大人審査員の皆様、こどもファンドアドバイザー、こども審査員サポーター、そして活動を応援していただいた皆様に感謝を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



高知市長 岡崎 誠也

1 平成 30 年度事業スケジュール

	運営等	広報等
4 月	15 日 事前説明会 (会場：市民活動サポートセンター)	
5 月	10 日 助成事業応募締め切り	こどもファンド通信(第 25 号) 発行
6 月	10 日 事前研修会(こども審査員) 17 日 公開審査会 (会場：市保健福祉センター)	
7 月		平成 29 年度事業報告書発行
8 月	助成団体の活動期間	こどもファンド通信(第 26 号) 発行 平成 30 年度公開審査会報告書 発行
9 月		
10 月		
11 月		制度紹介チラシ発行
12 月		コミュニティ計画推進市民会議定例会、地域内連携協議会で事業募集、第 8 期こども審査員チラシ配布(随時)
31 年 1 月		・民生委員児童委員協議会会長会で事業募集、第 8 期こども審査員募集の周知 ・市内近隣小中高校等へ、事業募集及び第 8 期こども審査員募集チラシ配布開始
2 月		・コミュニティ計画推進市民会議定例会でチラシ配布(随時) ・こどもファンド通信(第 27 号) 発行
3 月	17 日 活動発表会 第 8 期こども審査員応募者面接 (会場：市南部健康福祉センター)	

2 助成を決定する審査員等

(1) 審査員について

こうちこどもファンドの審査は、「大人審査員」と「こども審査員」が一緒に行います。大人審査員は、学識経験者・民間企業関係者・まちづくり活動関係者・行政などの分野からなる7名で構成されています。平成30年度の第7期こども審査員は、小学校4年生から高校2年生までの9名で構成されました。こども審査員は、審査会の1週間前に「事前研修会・模擬審査会・事前審査会」を行い、公開審査会に向けて準備を行いました。

○事前研修会

こどもファンドの事業趣旨を学ぶとともに、自分たちが審査する時のポイント（審査項目）を話し合い、決定しました。その際、こども審査員のサポート役として「こども審査員サポーター」を配置し、子どもたちが活発な議論ができるようにサポートしていただきました。また、公開審査会当日にも、こども審査員を支援する役割を担っていただきました。

○模擬審査会

模擬プレゼンテーションを行い、決定したばかりの審査項目に添ってこども審査員が実際に審査を体験しました。

○事前審査会

応募グループから出された申請書の内容について、大人・こども審査員が情報を共有しました。

(2) 申請団体側のサポートについて

「こどもファンドアドバイザー」を配置し、①こどもファンドへ応募するまでの企画を検討するとき②応募後、公開審査会での発表方法を考えるとき③助成決定後の活動時の3段階におけるアドバイスを行っていただきました。

こども審査員（9名）

古谷 愛夏（旭小学校4年）、前田 桔平（秦小学校5年）、増田 光祥（高知小学校6年）、宇賀 みくも（城西中学校3年）、森本 向日葵（大津中学校3年）、田部 祥一郎（城西中学校3年）、吉本 怜（高知北高校2年）、松田 恭香（高知商業高校2年）、井上 彩乃（高知商業高校2年）

大人審査委員（7名）

審査委員長・卯月 盛夫（早稲田大学社会科学部社会科学総合学術院教授）、審査副委員長・吉門 文恵（株式会社ケンジン代表取締役社長）、梶 英樹（高知大学地域連携推進センター地域コーディネーター講師）、尾崎 昭仁（特定非営利活動法人NPO高知市民会議プロジェクトマネージャー）、山本 正篤（市教育長）、谷脇 禎哉（市市民協働部長）、山川 瑞代（市こども未来部長）

サポート役（2名）

こども審査員サポーター 利根 由佳（市教育委員会学校教育課 指導主事）、
こどもファンドアドバイザー 畠中 洋行

※役職・学年等は、平成30年10月1日時点のものです。

3 公開審査会

○日時：平成30年6月17日（日） 13時30分～17時

○場所：高知市保健福祉センター 3階大会議室



13:30

こどもファンド公開審査会 開会

副市長あいさつ、本日のスケジュール説明、
審査員紹介（決まった審査項目をこども審査員代表が発表）

13:40～

応募団体による公開プレゼンテーション 開始

応募団体が3分以内で発表し、それに対して審査員が5分以内で質問を
します。7団体が発表します。

14:40～

休憩

休憩時間の中に、こども審査員が一次判断を行います。（青いシール貼り）

14:55～

審査員による公開協議

一次判断の結果について、審査員が公開で話し合いを行います。そのなかで、
審査員から、もう少し聞きたいことがあるというグループについては、再度、審査
員から質問します。

15:50～

休憩

休憩時間の中に、こども審査員が最終判断を行います。

16:05～

審査結果発表

16:10～

こども審査員からの感想発表

16:30～

審査委員長からの講評

16:50

閉会



(1) 審査の流れ

①助成申請した活動内容について、応募団体がプレゼンテーションを行います。(持ち時間3分間)

②各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに、審査員との質疑応答の時間を設けます。(5分間)

③公開プレゼンテーションと質疑応答の結果をふまえ、こども審査員9名が、各応募事業について「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」のいずれの項目に該当するか、一次判断を行います。

④一次判断の結果をもとに、助成をするかしないか、こども審査員と大人審査員が、公開で審議を行います。「もう少し質問がある」「もうちょっと!」にシールが貼られている団体に対して、審査員から再度、質疑応答の時間を設けます。

⑤公開での審議後、こども審査員9名が、助成するかしないかについての最終判断を行い、こども審査員の過半数、5名以上が助成すると判断した場合に助成が決定します。

⑥審議結果については、公開の場で発表します。



(2) 審査結果

応募された7団体すべてが助成決定されました。

助成団体	助成金額	得票数	助成可否
おおつっ子	200,000 円	9	合格
I K K U 絆コミュニティ	200,000 円	9	合格
旭地区防災食プロジェクト	200,000 円	9	合格
太平洋学園コミュニティー協力隊	200,000 円	8	合格
虹を見る子どもたちプロジェクト	200,000 円	9	合格
A O Y A G I 地域盛り上げ隊	200,000 円	9	合格
natural チーム	200,000 円	9	合格

※なお、公開審査会の内容の詳細は、平成30年8月発行の「こうちこどもファンド平成30年度審査会報告書」に掲載しております。

4 助成団体の活動

○助成活動期間：平成30年7月1日 ～ 平成31年2月28日

審査会において助成決定された7団体は、それぞれ次のような活動を行いました。

平成30年度こうちこどもファンド助成決定団体一覧

No.	団体名	活動テーマ	活動内容	活動期間	こども代表者及びメンバー	大人サポーター責任者	支援団体等(予定含む)	助成金額(円)
1	おおつっ子	満開の笑顔でつながれおつっ子	○アルミ缶回収を行い、お金と交換して、地域の老人ホーム等へ車椅子等を寄贈 ○南海トラフ地震に備えて、防災に関する知識を学び、「防災劇」という形でその成果を地域等へ発表 ○吹き出し訓練の開催	平成31年2月28日 完了予定	山田 純彦 大津中学校生徒会メンバー合計10名	岡下 洋介 (大津中学校生徒会担当教諭)	・大津ふれあいセンター ・大津小学校	200,000
2	ikku絆コミュニティ	地域交流でつくる一宮の絆	○小学校・地域・高齢者施設等との交流(独自に作成する道徳カルタや段ボールレ作り等を通じて交流) ○震災等の被災地でボランティアを行った方への聞き取り調査や大瀬青私園訪問を通して、災害・人権に関する学習を実施 ○上記活動を通して学んだことや交流の様子を新聞にまとめて発行	平成31年2月28日 完了予定	山下 冬馬 一宮中学校生徒会・コース部メンバー等合計23名	柳谷 百香 (一宮中学校教諭)	・一宮ふれあいセンター ・一宮児童館 ・特別養護老人ホーム絆の広場 ・太平洋学圏コミュニティ協力隊	200,000
3	旭地区防災食プロジェクト	みんなの命と食をこどもが守るんジャー!	○防災食となる食物の栽培・収穫・調理を行い、防災食レシピを作成 ○防災食として活用できる植物に関する学習を実施 ○上記活動に関する防災新聞を発行	平成31年2月28日 完了予定	秋山 優音 旭中学校・旭小学校生徒、保育園児等合計11名	秋山 和久 (保護者)	・旭小学校 ・旭小学校区青少年育成協議会 ・高知大学防災すけっと隊 ・旭地区住民	200,000
4	太平洋学圏コミュニティ協力隊	学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～避難所生活を皆で考えよう～	○防災食・防災食付箋の取扱説明書の作成 ○避難所運営疑似体験学習の実施 ○学校・地域に対する学習成果の発表	平成31年2月28日 完了予定	竹澤 葉菜 太平洋学圏高等学校生徒合計21名	光雷 祥 (太平洋学圏高等学校校長)	・太平洋学圏高等学校生徒会 ・太平洋学圏高等学校PTA ・宋西公園愛護会	200,000
5	虹を見る子どもたちプロジェクト	虹を見る子どもたちプロジェクト～夢を叶えよう～	○子どもによる子どものためのイベント開催 ※出展ブース内容: 飲食、マジック、音楽、フリーマーケット、消防車・パトカーなどの体験コーナーなど	平成31年2月28日 完了予定	松村 滉士郎 南中学校・高知小学校・介良瀬見台小学校生徒合計3名	松村 敦子 (保護者)	・高知県青年団協議会 ・高知市子ども会連合会 ・NPO法人こちろの文化振興会 ・NPO法人住環境福祉ネットワークこうち	200,000
6	AOYAGI 地域盛り上げ隊	過去の絶海池を取り戻し、地域の笑顔をやみがえらせよう!	○絶海池に関する情報をまとめた新聞を発行 ○ゲーム形式による絶海池の一言溝掃	平成31年2月28日 完了予定	宮本 明 青柳中学校生徒会メンバー合計10名	植田 歩依 (青柳中学校生徒会担当教諭)	・五台山まちづくりの会 ・高須ふれあいセンター ・五台山ふれあいセンター	200,000
7	naturalチーム	豊かな里山の四季の食材を発見し、久重のごちそうを広めよう!	○久重地域に自生する野草の収穫・調理等を行い、災害に備えた有用植物のレシピを作成	平成31年2月28日 完了予定	弘田 睦人 山下 穂紅美 久重小学校・土佐中学校・愛宕中学校生徒合計23名	武林 由希子 (保護者、久重地域連携協議会)	・久重地域連携協議会 ・久重自主防災連合会 ・株式会社相愛	200,000

5 助成団体活動発表会

○日時：平成31年3月17日（日） 13時30分～17時

○場所：高知市南部健康福祉センター 2階大ホール



13:30 開会

○本日の説明

13:40～ 助成団体による活動成果発表 開始（7団体発表）

○各団体3分～5分以内で活動成果発表と、審査員との質問や意見交換

※発表を聞いている人は、いいところやメッセージ、活動の中の良いアイデアを「ふせん」に書く。

14:50～ 休憩・投票タイム（15分）

○活動団体に対する賞の投票

※発表中に書いた「ふせん」を各団体の模造紙に貼る。

15:05～ 交流タイム ～今後に活かすグループワーク～

○助成団体ごとに他団体の活動のアイデアで自分達に活かせることの話し合い

○団体ごとに話し合った内容の発表

15:55～ 休憩（5分）

16:05～ 団体表彰

16:10～ こども審査員感想発表

16:20 審査委員長からの講評

16:30 閉会

16:35～ 記念撮影



(1) 活動発表会について

3月17日（日）に、平成30年度の助成団体活動発表会が開催されました。7つの助成団体が、自分たちが取り組んだ活動について、1グループ5分以内で発表を行いました。

助成が決定してから8ヶ月間、学業やクラブ活動など、多忙なスケジュールを調整し、自分たちの住む「まち」をより良くしていきたいという思いで、活動してきた子どもたちの発表は頼もしく、大きく成長した姿を見ることができました。

おおつつ子

これまでアルミ缶を回収・換金し、地域の福祉施設に車イス等を寄贈する活動を行ってきましたが、30年度は新たな取り組みとして、「防災劇」を企画しました。大津中学校生徒会のキャラクター「おおつつ子ちゃん」が、「地震博士」「ひなんちゃん」と一緒に防災について学んでいくというストーリーで、大津文化祭や公民館などで防災劇を披露しました。



IKKU絆コミュニティ

災害時などに地域の皆で助け合うための強い絆を作ろうと、一宮地域の高齢者施設やお祭りなどで、ボランティア活動を行いました。また、国立療養所大島青松園を訪問し、ハンセン病の歴史を知ること、「学んだことを伝える」大切さを感じました。新聞作成や発表会の開催など、学習・活動内容を発信することで、一宮中学校のイメージをもっと良くしていきたいと考えています。



旭地区防災食プロジェクト

29年度から旭小学校の畑を使って防災食（野菜）を栽培し、農作業・防災について学びながら、地域との交流を深めています。30年度は、アルミ缶を使ったご飯炊き、畑の野菜を使ったピザづくり、さつま芋・大根・かぶ・小松菜・チンゲンサイ等の収穫作業を体験しました。防災食を広めることによって、防災意識を高める活動を行いました。



太平洋学園コミュニティー協力隊

避難生活を想定した1泊2日の「防災キャンプ」を太平洋学園高校で行いました。避難所での実体験を基にした事例を学び、体育館で防災食の調理等を行いました。夜は段ボールの寝床で眠り、避難所生活を体験。この防災キャンプで学んだことなどをまとめて、学園祭で広報したり、地域に向けて発表をしたりするなど、防災啓発に関する活動を行いました。



虹を見る子どもたちプロジェクト

「子どもたちに夢の大切さを知ってもらい、夢を持ってもらえる」ような活動を行うため、11月に「こじゃんと広場」で1日限定イベントを開催しました。フリーマーケットやプレイブースなどを用意し、司会進行やステージでの演奏など、子どもが主体となってイベントを運営。最後は手話バージョンの「銀河鉄道 999」を会場全員で歌い、フィナーレを迎えました。



AOYAGI 地域盛り上げ隊

青柳中学校区内にある絶海池をきれいにするため、「第1回絶海池クリーン大作戦！」と銘打って、一斉清掃を行いました。集めたごみの量を競うゲーム形式で清掃を実施し、約150人の生徒・先生・地域の方々にたくさんのゴミを集めました。また、事前に地域の方に取材をして、絶海池の歴史などを紹介する「絶海池新聞」を発行しました。



natural チーム

久重地域に自生する野草の収穫・調理等を行い、有用植物（食用・薬用などさまざまな用途で人の役に立っている植物）のレシピを作成しました。これまで、タンポポ・ノカンゾウ・ムカゴ・アケビなどを採取し、地域の方に教わりながら、調理をしました。また、地域行事に参加して七草粥を試食するなど、里山の魅力をたくさん感じながら、活動を実施しました。



(2) 交流タイムでの発表・質問について

各団体の発表を聞いている間に、他のグループは自分達の活動に活かせるようなアイデアを、参加者・審査員は各団体の発表や活動内容の良いところやメッセージをふせんに書いて、模造紙に貼り付けました。交流タイムでは、貼られたふせんの内容をもとに、他のグループの活動アイデアで今後の自分達の活動に活かせるようなことを考えるグループワークを行い、その後発表・質問を通じて交流を図りました。

おおつつ子

○今後に活かせるような活動の発表

- ・ 防災劇を見てくださった人や愛校作業に参加してくれた人に対して、防災グッズを作成して配布する。
- ・ 避難所体験を実施して、そこに地域の人を呼ぶことで、私たちの課題である「地域の方々と関わりを持つ」ということを実践していきたい。

○他のグループへの質問

- ・ サバイバルキャンプを実施したことで、何を感じましたか？（旭地区防災食プロジェクトへの質問）⇒寝るときは、寒いと感じました。



IKKU絆コミュニティ

○今後に活かせるような活動の発表

- ・ 地域との交流がまだまだ足りないので、清掃や交流活動をもっと実施していきたい。
- ・ 防災など、活動テーマを絞っていく。
- ・ 地域だけではなく、学校内でももっと繋がりを深めていきたい。
- ・ 幅広い世代の人が楽しめるイベントを企画したい。

○他のグループへの質問

- ・ どうしてこのイベントの企画を立ち上げたんでしょうか？（虹を見る子どもたちプロジェクトへの質問）
⇒高知県は少子高齢化で子どもが少なくなっていて、将来はお年寄りが増えることで若者はずっと介護をしなければならなくなるなど、子どもが夢を叶えていくことが難しくなるかもしれない。だったら、今の子どもに必要なのは「夢を持つ」ということで、そこからスタートすることが必要なんじゃないかと思ったので、夢の大切さを伝えるイベントを開きたいと思い、このイベントを開催しました。
- ・ 清掃活動に参加してくれる人をどのように集めたのかを教えてください。（AOYAGI 地域盛り上げ隊への質問）
⇒作成したポスターを地域の掲示板に貼ってもらい、呼び掛けを行いました。



旭地区防災食プロジェクト

○今後に活かせるような活動の発表

- ・野草を探してみたい。
- ・防災食のレシピを作成してみたい。
- ・自分たちで新聞づくりをしてみたい。
- ・オリジナルのキャラクターを作ったり、障がいのある方たちとも一緒に活動してみたい。



○他のグループへの質問

- ・どんな所に野草は生えていますか。また、レシピ集はどのように作れば分かりやすい内容になるでしょうか？（natural チームへの質問）
⇒野草（有用植物）は色々な所に生えているので、久重地域以外のような里山はもちろん、高知市内にもたくさん生えています。例えば旭地区防災食プロジェクトの活動に参加したときに食べたシロツメグサや、道端に生えている皆が食べれないと思っているようなものなども、野草を紹介する本にはたくさん載っています。知っている野草もたくさんあると思いますので、ぜひ調べてみてください。レシピ集を分かりやすくするためには、季節毎でレシピを分けたいと思います。
- ・新聞を分かりやすい内容にするために、工夫していることはありますか？また、オリジナルキャラクターを使ったグッズの中で、お薦めの物がありますか？（太平洋学園コミュニティー協力隊への質問）
⇒新聞を作るコツについて、私たちは先生と相談しながら作ることが多いんですが、自分たちが体験したことをできるだけ分かりやすく伝え、「防災について興味を持ってもらえる」ような内容にすることを心掛けています。グッズについては、ポケットティッシュが配布しやすいし、伝わりやすいという点もあるのかなと思っています。
- ・障がいがある人と触れ合うようにするには、どうしたらいいでしょうか？（虹を見る子どもたちプロジェクトへの質問）
⇒僕たちは音楽をメインにしていたので、障がいがある方にステージに上がってもらったりしました。また、イベントをやるときはフリースペース（遊んだり何でもできる場所）を作ってあげると、いいのではないかと思います。

太平洋学園コミュニティー協力隊

○今後に活かせるような活動の発表

- ・地域の方々ともっと関わる機会を増やしたい。
- ・地域のイベント等にもっと参加してみたい。
- ・自分たちの発表の完成度をもっと高めたい。
- ・非常食は既製品を食べることが多いので、自分たちで非常食を作ってみたい。
- ・さまざまな施設を訪問して、勉強をもっとしてみたい。



○他のグループへの質問

- ・地域への呼びかけはどのように行いましたか？（おおつっ子への質問）
⇒お祭りでの宣伝や、ふれあいセンター長さんに相談して宣伝してもらったりしました。

虹を見る子どもたちプロジェクト

○今後に活かせるような活動の発表

- ・募金活動をやってみたい。
- ・流しそうめんやご飯作りなど、自分たちで調理するようなことをやってみたい。
- ・自分たちのチームは虹（7色）をテーマに活動しているので、natural チームが参加した七草フェスタと「7繋がり」でコラボをしてみたい。
- ・おおつっ子の防災劇を参考に、自分たちもミュージカルのようなことをしてみたい。
- ・オリジナルキャラクターを作ってみたい。



○他のグループへの質問

- ・オリジナルグッズのイラストは、どういう風に考えたんでしょうか？（太平洋学園コミュニティー協力隊への質問）
⇒去年は学校内でイラストを募集して、2つキャラクターを作りました。今年度はその2つのキャラクターを合体させたような形で作りました。

AOYAG | 地域盛り上げ隊

○今後に活かせるような活動の発表

- ・地域のお祭りに参加して、自分たちの活動を知ってもらいたい。
- ・防災の取り組みをやってみたい。
- ・来年度は濱口雄幸を紹介するので、その時に劇を取り入れてみたい。



○他のグループへの質問

- ・サバイバルキャンプでは、段ボールをどれくらい使いましたか？（旭地区防災食プロジェクトへの質問）
⇒60枚くらい使いました。
- ・たくさんの方が集まっていたと思いますが、どのように宣伝をしましたか？（虹を見る子どもたちプロジェクトへの質問）
⇒チラシやポスターを作ったり、さんさんテレビ・ケーブルテレビに出演して広報をしました。また、中学校の友達や、自分がライブをしたりする時などには、チラシを配布して宣伝をしました。

- ・地域の方には、どうやって声を掛けましたか？（IKKU 絆コミュニティ・おおつつ子への質問）
 - ⇒学校活動に関わってくれている人に声を掛けました。（IKKU 絆コミュニティ）
 - ⇒地域のお世話役の人に相談をして、保育園や老人ホームなどに宣伝をしてもらいました。また、自分たちで色々な所を直接訪問して、宣伝をしました。（おおつつ子）
- ・お祭りでは、どんなお店を出したらいいと思いますか？（おおつつ子への質問）
 - ⇒おおつつ子はカキ氷を売るつもりで準備をしていましたが、今年は台風で中止になってしまいました。

natural チーム

○今後に活かせるような活動の発表

- ・久重地域は山の上にあるので、救助が遅れてしまう可能性もある。防災キャンプを実施して、災害に備えていきたい。
- ・久重地域の皆で協力して活動をしたいので、地域の方々ともっと交流をしていきたい。また、挨拶をしたり、地域の人のことを考えながら活動をしていきたい。
- ・他のチームのイベント等に積極的に参加していきたい。



○他のグループへの質問

- ・防災キャンプに参加するメンバーは、どんな風に決めていますか。また、自分から参加することはできますか？（旭地区防災食プロジェクトへの質問）
 - ⇒学校で宣伝をして、参加者を集めました。参加したい人は、自由に参加することができます。

こども審査員からの提案（あの団体のアイデアをこの団体に活かそう！）

○おおつつ子への提案

- ・太平洋学園コミュニティー協力隊と一緒に、炊き出し訓練をやってみてはどうか。また、防災キャンプをしているときに、防災劇を披露してみてもどうか。
- ・虹を見る子どもたちプロジェクトのイベントで防災劇を披露すれば、高知市全体の防災意識も高まるのでは。



○IKKU 絆コミュニティへの提案

- ・AOYAGI 地域盛り上げ隊が連携して、「人を集める大変さ」「清掃作業の大変さ」など清掃活動で学んだことを、一緒に発表してみてもどうか。
- ・虹を見る子どもたちプロジェクトが学んだ手話を生かして、人権について考えてみるかどうか。

○旭地区防災食プロジェクトへの提案

- ・太平洋学園コミュニティー協力隊と連携して、オリジナルグッズを作成してみてはどうか。
- ・natural チームと連携して、久重地域で採れる食材を活用し、防災食を作ってみてはどうか。
- ・虹を見る子どもたちプロジェクトのこども食堂のブースに、畑で採れた野菜を持っていくのはどうか。

○全グループへの提案

- ・複数の団体が協力してひとつのイベントをやるなど、各団体の活動の輪がもっと広がっていけば良いと思った。

(3) 団体表彰

平成 30 年度活動発表会では、以下の賞を決定し、表彰しました。

○ベストパフォーマンス賞

活動内容や発表会でのプレゼンテーションが一番良かったグループ（会場投票により決定）



naturalチーム



○ベストピカッと賞

活動の進め方や活動内容について、工夫や面白さが感じられたグループ（審査員投票により決定）



AOYAGI
地域盛り上げ隊



○ベストこどもファンド賞

発表会でのプレゼンテーション、活動内容など、一番よかったと思うグループ（審査員投票により決定）



虹を見る子どもたち
プロジェクト



(4) こども審査員からの感想発表

第7期こども審査員の皆さんに、審査員を経験してみたの感想や、応募団体のプレゼンを聞いて審査した感想などを発表してもらいました。

○宇賀委員

色々な団体の方々が協力して、活動をされていました。去年「協力しあったらいいんじゃないか」という意見を伝えた後に、すぐに行動に移すことができている、行動力がすごいと思いました。1年間お疲れ様です。来年も参加される方は、頑張ってください。



○吉本委員

1年間通して、こうちこどもファンドのこども審査員をさせていただきました。最初は「助成金の審査ってすごい」「本当に僕でいいのかな？」と思いながらやっていたんですけど、「どのグループもすごい」「ここはぜひ審査したい！」というところばかりでした。そして、1年間経って今日発表を聞いても、どの団体も素晴らしい活動ばかりだと思い、「僕達もしっかり審査した甲斐があったな」って思うのと同時に、「ひとりひとりが努力した結果なんだろうな」というのをすごく感じました。今日はすごく充実した1日でしたし、活動団体さんにとっては充実した1年間だったと思います。皆さん、ありがとうございました。



○田部委員

各団体の皆さん、1年間忙しい活動をお疲れ様でした。年々、「地域との関わりがレベルアップしている」ということを感じています。今日の交流タイムで、他の団体との繋がりを感じたと思うので、来年度は各団体が連携して、さらにレベルアップした姿を見ることができたらいいなと思っています。一年間、お疲れ様でした。



○森本委員

一年間の活動、そして今日のプレゼン、お疲れ様でした。今年の団体はどれも防災意識が高く、また地域との関わりを大切にする団体もたくさんあると思いました。私が話したいことは、まず「この一年間、活動をやり遂げたということに自信を持ってほしい」ということです。活動を始めたきっかけは、人それぞれ違うと思うんです。でも、今日この日まで活動を続けてきたということは、大きな経験値になると思いますし、そして自信にもなると思います。なので、今日の発表会を忘れずに、次のまた活動をするのであれば、そこに活かしてほしいなと思います。そして、こうちこ



どもファンドというものは、たくさんの人の支えがあってできているものだと思います。寄附をしてくれる人がいて、今日この場を設けてくれる人がいて、だからどの団体も活動ができて、そして私達も審査ができる、という恵まれた環境にあるので、それを忘れずに次の活動に活かしてほしいなと思います。今日は本当にお疲れ様でした。

○古谷委員

活動団体の皆さん、一年間本当にお疲れ様でした。今年の団体は地域との繋がりも強くて、とても素晴らしい発表でした。本当にお疲れ様でした。



○前田委員

一年間お疲れ様でした。僕はこの活動発表会を聞いて、「助成団体の皆さんが、高知のまちのために頑張っている」ということが、とても心に伝わってきました。その活動について評価したり、話し合ったりする事ができて、僕自身にとってもすごくいい経験になったと思っています。ありがとうございました。



○松田委員

各団体の皆様、一年間お疲れ様でした。私は今回初めて参加させていただいたんですけど、各団体の皆さんが「自分達がこの地域を活性化させたい」「元気にさせたい」という思いで身近にあるものを活かしたり課題を発見したりしているのを聞いて、「自分達も負けていけないな」というふうに感じました。年が幼い子たちもたくさんいて、そういう子たちが「地域のために何かをしたい」と声を上げている姿を見て、「すごいな」「この活動には意味があるんだな」という風を感じました。同時に、ここに審査員という立場で立たせていただいて広がったコミュニティを、これからの活動にも活かしていけたらいいなというふうに感じました。一年間、お疲れ様でした。



○井上委員

各団体の皆さん、一年間活動お疲れ様でした。自分自身、一年前の自分の想像を超える皆さんの活動報告が聞けて、自分のこれからにもいっぱい活かしていきたいなと思っています。今日一番思ったのが、「子どもたちの熱意は大人を動かすんだな」という事です。寄附のお話だったり、高知新聞の方が実際ここに来られていることであったり、「子どもたちから地域・高知市・高知県を活性化させていこう」という思いが伝わってきて、すごく自分も感動したというか、「自分もそんな風になれているかな」ということを思いました。これからも今までの活動をも



っと良くして、高知県・高知市を子どもたちの力でよりよくしていけたらと思います。今まで、本当にお疲れ様でした。

(5) 畠中こどもファンドアドバイザー 講評

皆さんお疲れ様でした。僕の方からは、今日の発表会の中で気づいた事を、何点かお伝えしたいと思います。

まず、今年の皆さんの活動発表、それから皆さんがお話しているのを見ていて、1つ目に思ったのは、「伝える工夫」に関するお話がいくつか出ていたように思います。それは「いかにしてたくさんの人に参加してもらうのか」「どんなふうに呼び掛けるか」という事で、新聞やチラシを作っているところもあるし、色々なメディアを活用しているところもありました。AOYAGI 地域盛り上げ隊の絶海池新聞やIKKU 絆コミュニティの通信など、今年はとにかく「伝える」ということに力を入れてやっているチームがあったように思います。その中で、おそらく新聞を発行していたチームは苦労したと思いますね。「何をどのように、そしてどんなふうに分かりやすく伝えるか」というところでかなり苦労されたんじゃないかと思うんですが、でもこれはすごく大事なことだと思います。みんながやっていることを伝えることによって共感の輪が広がるということが、すごく大事だと思います。



そのことで言いますと、高知新聞で去年の10月から3月までの6ヶ月間、毎月第一火曜日にこどもファンドの記事を掲載していただきました。これは「子どもたちがまちづくり活動をしている様子を、高知新聞さんとしても伝えていただけないでしょうか」ということを、高知市の方と一緒に高知新聞さんに話しに行きました。そこでまず、高知新聞さんに共感を得ることができまして、そして始まったのが、「読もっかこども高知新聞」なんです。最初は記者の方に記事を書いてもらうかどうかを僕も悩んでいたんですが、読もっかは「こどもが記者になり、記事を書いて送る」ということがシステムになっていることを教えてもらったので、これは「こどもファンドにとっても適しているな」と思いました。みんなが活動してきたことを、少し立ち止まって文章にすることで「いかに分かりやすく伝えるか」という訓練ができたのではないかと思います。皆さん、どうだったでしょうか？自分達の手で書いた記事が新聞に載って、周りの方から「載っちゅうね」とかって言われませんでしたか？「うんうん」と頷かれている方が会場にもいらっしゃいますね。これは高知新聞担当記者の横山さんが今日も会場に来てくださっていますが、実は横山さんは毎回みなさんの活動現場に足を運んでくれて、みんなから送られてきた記事が「これで大丈夫かな」とドキドキしながら、最初の読者として横山さんが記事を読んで、あそこに載せていってくれているんですね。来年度4月からもこの記事を継続できるかどうか心配していましたが、何らかの形でこどもファンドを継続して紹介していただけるようになったそうなので、ぜひみなさんには頑張って記事を書いてほしいです。そして、今日高知市の方にお尋ねしましたら、実はこの高知新聞に載ったことでたくさんの方から、なんと約100万円の寄附がされたことを聞きました。やっぱりこうやって、

大きな記事として毎掲載させていただけることが、寄附をしていただく方にとっても、「ああ、いい事しているな」という風に繋がっていくんだと思います。これはやはり「共感をしてもらえるから寄附をいただける」ということなので、「記事を書く時はつらいかもしれませんが、書いた後は色々なことに良い影響を与えている」ということを知っておいてほしいと思います。

それと、伝える手法の一つとして今回面白かったのは、おおつっ子の防災劇です。以前は南海中学校が「にわか」という手法で防災を伝えていたんですが、今回の防災劇も一つの伝え方だというふうに思いました。

それと、高知新聞以外にも、実は高知以外にもこどもファンドの情報は伝わっています。FM ラジオの文化放送では、natural チームの取り組みが放送されました。これは全国ではないですが、文化放送が聴ける所には放送されていますよね。それと FM 高知では、虹を見る子どもたちプロジェクトの活動が紹介されていました。このようにみんなが頑張っていることは高知の人だけではなく、もっともっと広く伝わっているということも、ぜひ知っておいてほしいと思いますね。やはりこれは皆さんが頑張っていて、そのやっていることにいろんな方が興味を持ってくれるから、共感の輪が広がっているということだと思います。

そしてもう一つは、「団体同士の繋がり」が皆さんの話の中で出ていました。今年が一番最初に、旭地区防災食プロジェクト・natural チーム・太平洋学園コミュニティー協力隊が一緒になって、催しを開催しました。先ほどは「いろいろなところで、どうも繋がりが生まれそうだ」という話が挙がりましたが、その繋がりの中で一番キーになる団体が「虹を見る子どもたちプロジェクト」じゃないかなと、僕は話を聞いていて思いました。先ほど「障がいがある方達にブースを構える」という話がありましたが、それで言えば、各団体の活動を紹介するブースがそこにできたって面白いよね。そこで劇が披露されてもいいし、そこに防災グッズが並べられているとか。そうやって活動を繋いでいく。今まではどちらかといえば、中学校単位・地域単位の活動での広がりはあるんですけど、虹を見る子どもたちプロジェクトは地域全体・市全体でいろんな人がそこに集まれる場を作ってくれたんじゃないかと思いました。次の世代へバトンタッチするかどうかもあると思いますが、こういう活動を続けることで、ぜひ各団体を繋げてほしいなと思いました。

後は、先ほどのおおつっっ子さんの防災劇がプレゼンの中で見られなくて僕も残念だったんですが、後で先生が 아이폰 で見せてくれていましたが、これは来年からの事務局側の課題かもしれませんが、プレゼンテーションの中で表現できないものは、DVD か何かで休憩時間中に劇が見れるようにするなど、そういう工夫があってもいいのかなと思いました。

それと、グッズなどの成果物を活用することが、とても大事だなと思っています。先ほどの太平洋学園コミュニティー協力隊のように、ポケットティッシュを上手に作って配布する方法がありますよね。それから natural チームのレシピ集を、例えば市にお願いして窓口で配布してもらおうとか、それから地域の全家庭に配布するなど手法としてあります。また、今日会場の応援席にいる natural チームの方々の中で、「里山ウォーク」というプログラムを考えている地域の方々もいらっしゃいます。例えば高知市内の人が久重のまちを散策するときに、「春・夏・秋ぐらいで里山ウォークをしながら、このレシピ集に載っている美味しい物を食べる」みたいなことをやれたら、それに参加した人も喜ぶんじゃないかと思うので、大人の皆さん、ぜひ検討してみてください。

とにかく皆さん、本当に活動ご苦労様でした。お疲れ様でした。

(6) 卯月審査委員長 講評

長い時間、皆さんどうもごくろうさまでした。

このこうちこどもファンドは7年目をもうすぐ終えて、8年目になりますが、今日僕が一番感じたのは、「もう僕は高知を去ってもいい」という、非常に個人的な見解です。もう少し詳しく言うと、10年前くらいに高知市役所の方と、もちろん市長も含めて、「高知の子どもたちを元気にしたい」「高知で子どものまちづくりをもっと活性化して、大人にもいい影響を与えるようにしたい」ということを、昼夜に大議論をしました。その時には、「子どもの活動をする団体はあるかもしれないけれど、こども審査員なんて無理だよ」という意見が挙がりました。「子どもたちの活動をきちんと支えるのは大人で、大人の審査やサポートがあるべき」というような議論でした。10年前くらいの当時の日本の状況をみれば、全くその通りだと思います。子どもたちが活動する仕組みを整えるという事はもちろん重要で、子どもたちというのは主体的に現場に行き、色々な人と知り合って、まちづくりの活動をするという事からも多くの事を学ぶことができます。しかし、実は「こども審査員」という少し違った立場で客観的に活動を見たり、今日のグループワークのように「この団体はこういう活動をしたらもっとよくなるのでは？」など、全く違った発想でまちづくりを見ることもできるわけです。従って、「活動するのは子どもだけど、審査するのは大人だよ」という当時の考えは完全に間違っていて、「高知市がこのような方法を採用したということは正しかった」ということを、今日つくづく思いました。その当時、「子どもがまちづくりのフィールドを持って、子どもが審査することによって何がどう変わるのか」など、もう色々な議論をしたんですね。僕は「子どもが自分の言葉で話し、自分のアイデアで現場に出ていくと大人が変わるんだ」ということを、それまでのいくつかの体験で思っていました。そしたら、なんと最後にこども審査員の井上さんから、「子どもが活動すると大人が変わるんだ」ということを言ってくれました。僕は、今日ここにきて、最大の喜びはそこにありました。大人がどんなに言って子どもに伝えても、きっとあまりビビッとこないかもしれないね。だけど、ほぼ同学年で同じ高知に住む小・中・高校生同士で「あの活動はよかったね」と言い合ったり、子ども審査員の方から「大人を巻き込む事もできた」「支えてくれる大人がいるからこの場があるんだ」という話が聞いたりできるなど、本当に涙が出るようなコメントをいただきました。市役所の方は苦労しながらこの場に来ているんですけど、それが吹き飛ばすような子ども達の思いを感じましたね。最初のきっかけづくりなど、市役所の方々との話し合いで多少お手伝いはしたものの、高知は自立して子ども達自身が発想をして交流もして、日本をリードするような子ども達のまちづくりがもう転がり始めた、そしてこれからどんどん大きくなっていくということを感じました。大変良い体験をしました。

もうひとつだけ言わせていただくと、虹をみる子どもたちプロジェクトがベストこどもファンド賞を受賞しました。僕は虹を見る子どもたちプロジェクトの発表を聞いていて、色々なことを考えさせられました。「虹というのは夢を象徴してるんだ」とか、「高知や日本全体がどんどん高齢化社会になり、子ども達が夢を持ってなくなっているんだ」など。うすうす感じてはいましたけれども、そこまではっきり言われると、結構大人はショックです。そのことから目を逸らすのではなく、そ



それはそれとしてありながら、「これからのまち・社会を作っていくのは子ども達なんだから、子ども達がもう一度夢を持ち、その夢に向かって活動していこう」というメッセージを伝えてくれました。このグループの表現手段は音楽・芸術・文化でしたけれども、全ての分野でそれが言えると思います。市役所の方と一緒にこうちこどもファンドを考えた原点を思い出すような発言だったので、「こどもファンドが将来に進んでいくためにもとてもいいセリフだったな」「みんなでこの事を少し考える機会があつていいのかな」と思いました。

最後になりますが、2週間前にこのこうちこどもファンドを参考にして、東日本大震災で被災した宮城県名取市でスタートした「なとりこどもファンド」の最終発表会に行ってきました。こんなにたくさんの方はお集りじゃなかったんですけども、かなり活発な意見交換をしました。実は「高知でこのようなこどもファンドをはじめましょう」といった時点では、僕は正直言って、「高知は子どもを大事にしたり、子どもの自主性を重んじたりする、いわば市民・人間を大事にする伝統・歴史があるまちですので、高知ならできる」というふうに思っていました。名取市では、市長からも「ぜひ震災復興のために子ども達に夢を与えたい、夢を持ってほしい」というご相談を受けて、提案したんです。なので、まだできて2年目です。ところがそこで思ったのは、「高知でできたのはもちろん高知の地域性もあったと思いますが、どこでもできるんだ」というふうに思ったんです。要は、大人が子どもを信頼すればできる、子どもには計り知れない力があるということです。大人が子どもを支援しようと思って始めても、逆に子どもたちから我々が学ぶことのほうが多くあるということです。我々もかつて子どもでしたが、大人になる中でどんどん色々なものを失って、色々なものを忘れていった。この年になって、今でもそう思います。この高知や名取において、そういった子どもの真剣な目、子どもの議論を聞くと、まちづくりを勉強している私としては、心が洗われるというか、原点に戻ろうというか、そういう気持ちになるわけです。そういった意味で今日は、私にとっても、大変勉強になりました。

今後、このこうちこどもファンドが益々発展をすることを祈って、ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

6 平成 30 年度高知市子どもまちづくり基金実績

こうちこどもファンドは、平成 24 年度に創設した「高知市子どもまちづくり基金」を原資に運営しております。制度を長期に渡り継続していくためには、少しでも多くの企業・団体・市民の方から、こうちこどもファンド制度の趣旨に対してご賛同をいただき、寄附金という形でご支援をいただくことが必要です。未来のまちづくりを担う子どもたちを社会全体で支援し、その温かい支援や協力を子どもたちが感じながら活動していく中で、子どもたちは「夢の実現」だけではない、たくさんの学びや成長を得ることができると考えています。

平成 30 年度には、**28** 件の企業・団体・個人の方から **928,895** 円のご寄附をいただきました（寄附をいただいた皆様のご芳名は、巻末に掲載している一覧をご覧ください）。このこうちこどもファンドが安定した運営をしていけるように、今後ともご支援をいただければ幸いです。

また、平成 27 年度から募金箱を設置しています。領収等の発行は行わず、こうちこどもファンドを応援してくださる方からの善意の募金という形で運営しています。なお、500 円以上の募金で、こどもファンドの特製バッジを差し上げています。

平成 30 年度は、**11,151** 円の募金をいただき、「高知市子どもまちづくり基金」に積立させていただきました。



7 今後に向けて

「こうちこどもファンド」は、子どもたちの「自分たちのまちを良くしたい」という想いを形にするために、子どもたちが行うまちづくり活動に対して支援することで、こどもにやさしいまちの実現や、高知の将来を支える人材づくりを目指しています。

毎年子どもたちから意欲的なまちづくりの提案があることを嬉しく思う一方、これからまちづくり活動を行いたいと考えている子どもたちやサポートする大人にとって、どのようにすればより応募しやすく、活用しやすい制度になるのかを考えながら、まだまだ改善していく必要があります。

また、このこうちこどもファンドを知らない市民の方がまだまだいらっしゃいますので、より皆さんに知っていただくために広報手段も工夫していかなくてはなりません。平成30年度は10月～3月の計6回、「読もっかこども高知新聞」のコーナーで特集記事を掲載していただきましたが、今後も引き続き新聞・テレビ等のメディアでこどもファンドを取り上げていただけるよう、広報を強化していく必要があると感じています。そのためにも、活動意欲がある子どもたちの声を拾い、掘り起こし、応募に繋げていく仕組みを検討していき、もっとこの制度を周知していきたいと考えています。

子どもが申請し、審査をするのも子どもたちという「こうちこどもファンド」の仕組みは、全国でも先駆的な取り組みで、子どもたちが高知市のまちづくりに興味を持つきっかけの1つにできればと思っています。小さい頃から自分たちが住む地域のことに関心を持ち活動することが、大人になっても地域活動に参加することに繋がり、少しでもこのこうちこどもファンドが「地域活動の担い手不足」という課題解決につながる手段になればと考えています。

令和元年度は、「こうちこどもファンド」がスタートして8年目を迎えます。10周年という大きな節目が近づいてきている中、これまでにいただいたご意見や課題を反映し、制度をさらに発展させていきたいと考えておりますので、今後とも「こうちこどもファンド」のご支援をよろしく願いいたします。



資料編

- ・高知市子どもまちづくり基金条例
- ・高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱
- ・平成30年度活動発表会アンケート結果
- ・「こどもファンド通信」第25号（平成30年5月発行）
- ・「こどもファンド通信」第26号（平成30年8月発行）
- ・「こどもファンド通信」第27号（平成31年2月発行）
- ・平成31年度こうちこどもファンド助成事業募集チラシ
- ・第8期こども審査員募集チラシ

高知市子どもまちづくり基金条例

(平成 24 年 4 月 1 日条例第 23 号)

(設置)

第 1 条 子どもたちが主体となって取り組む子どもまちづくり活動を推進することにより、本市の将来を担う人材の育成を図るとともに、本市におけるまちづくり活動を活性化させるため、高知市子どもまちづくり基金（以下「基金」という。）を設置する。

(基金の積立て)

第 2 条 基金として積み立てる額は、一般会計歳入歳出予算で定める。

2 基金をより効果的に運用するため、基金の設置目的に沿う市民又は法人その他の団体の寄附金は、前項の積立額に充てることができる。

(管理)

第 3 条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ、最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

(運用益金の処理)

第 4 条 基金の運用から生ずる収益（以下「運用益金」という。）は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金の設置目的を達成するために行う事業の経費に充てるものとする。

2 前項に定める事業の経費に充当したものを除き、運用益金は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金に積み立てる。

(処分)

第 5 条 市長は、基金の設置目的を達成するため必要があると認めるときは、一般会計歳入歳出予算の定めるところにより、基金の全部又は一部を処分することができる。

(繰替運用)

第 6 条 市長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

(委任)

第 7 条 この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、高知市子どもまちづくり基金条例（平成24年条例第23号）第1条に規定する基金の設置目的を達成するため、高知市子どもまちづくり基金助成金（以下「助成金」という。）を交付することについて、補助金等の交付に関する条例（昭和29年条例第19号）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(助成対象団体)

第2条 助成金の交付の対象となる団体（以下「助成対象団体」という。）は、次に掲げる要件のすべてを満たす団体とする。

- (1) 本市に在住又は通勤若しくは通学している18歳以下の子どもが3人以上いること。
- (2) 団体の責任者及び監査として、20歳以上の大人が2人以上いること。
- (3) 活動の目的が明らかであり、当該助成に係る事業を自主的に行えるものであること。
- (4) 複数の世帯で構成される団体であること。
- (5) 過去に、同一の事業についてこの要綱に基づく助成金の交付を3回以上受けていないこと。
- (6) 団体の運営に関する規約、会則等を定めており、適切な会計処理が行われていること。

2 前項の規定にかかわらず、助成対象団体が、高知市事業等からの暴力団の排除に関する規則（平成23年規則第28号。以下「規則」という。）第4条各号のいずれかに該当すると認める場合は、助成金の交付の対象としない。

(助成対象事業)

第3条 助成金の交付の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）は、本市内において、子どもが主体となって取り組むまちづくり活動に係る事業とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる活動は助成対象事業としないものとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) 宗教的又は政治的な活動
- (3) 学校の授業の一環として行う活動

(助成対象経費)

第4条 助成金の交付の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）は、助成対象団体が行う助成対象事業に要する経費とする。

(助成金額)

第5条 助成金額は、助成対象経費の額を限度として予算の範囲内において、市長が認める額とする。

(助成金の交付申請)

第6条 助成対象団体は、助成金の交付を受けようとするときは、助成金交付申請書（様式第1号）に、必要書類を添えて、市長に申請しなければならない。

(助成金の交付決定)

第7条 市長は、前条の申請があったときは、その内容を審査し、助成金の交付の可否を決定し、適当と認めるときは助成金交付決定通知書（様式第2号）により、適当でないときとは所定の助成金交付却下通知書により当該申請をした助成対象団体に通知するものとする。

2 市長は、助成金の交付決定に際し、必要な条件を付することができる。

(交付申請の取下げ)

第8条 前条第1項の規定により助成金の「助成事業者」という。）は、その内容又付申請を取り下げようとするときは、当間以内に、その旨を所定の助成金交付申請のとする。

交付決定を受けた助成対象団体（以下はこれに付された条件に不服があり、交該交付決定の通知を受けた日から2週請取下届出書により市長に届け出るも

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る助成金の交付決定はなかったものとみなす。

(変更承認等)

第9条 助成事業者は、助成金の交付決定を受けた事業（以下「助成事業」という。）について、事業内容を変更し、中止し、又は廃止しようとするときは、あらかじめ助成事業変更等承認申請書（様式第3号）により、市長に申請し、その承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の申請があったときは、速やかにその内容を審査し、変更等の可否を決定し、所定の助成事業変更等承認（否認）通知書により当該申請をした助成事業者に通知するものとする。

（実績報告）

第10条 助成事業者は、助成事業が完了したときは、速やかに実績報告書（様式第4号）に、関係書類を添えて市長に報告しなければならない。

（助成金額の確定）

第11条 市長は、前条の報告があったときは、速やかにその内容を審査し、助成事業の成果が助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めるときは、交付すべき助成金額を確定し、助成金額確定通知書（様式第5号）により助成事業者に通知するものとする。

（助成金の交付請求及び交付）

第12条 助成事業者は、前条に規定する助成金額の確定通知を受けたときは、助成金交付請求書（様式第6号）により市長に助成金の交付を請求するものとする。

2 市長は、前項の請求があったときは、速やかにその内容を審査し、適当と認めるときは、助成金を交付するものとする。

（助成金の概算払）

第13条 市長は、助成事業について必要があると認めるときは、助成金の概算払をすることができる。

2 助成事業者は、概算払を受けようとするときは、助成金概算払請求書（様式第7号）により、市長に請求しなければならない。

（助成金の交付決定の取消し）

第14条 市長は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当したときは、助成金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により助成金の交付を受けたとき。
- (2) 規則第4条各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 助成金を助成事業の目的以外に使用したとき。
- (4) 助成事業の実施方法が不相当と認められるとき。
- (5) 助成事業を中止又は廃止したとき。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件その他この要綱に基づく命令に違反したとき。

2 前項の規定は、助成事業について交付すべき助成金額の確定があった後においても適用があるものとする。

3 市長は、第1項の規定による取消しをしたときは、所定の助成金交付決定取消通知書により、助成事業者に通知するものとする。

（助成金の返還）

第15条 市長は、前条第1項の規定に基づき助成金の交付決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消しに係る部分に関し、既に助成金を交付しているときは、期限を定めて、その返還を命じなければならない。

2 市長は、助成事業者に交付すべき助成金額を確定した場合において、既にその額を超える助成金を交付しているときは、期限を定めて、当該確定した助成金との差額の返還を命じなければならない。

（調査等）

第16条 市長は、助成事業の適正な執行を確保するために必要な限度において、助成事業者に対し、書類の提出若しくは報告を求め、又は必要な調査をすることができる。

（整備保管）

第17条 助成事業者は、助成事業に係る帳簿及び関係書類を整備するとともに、助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から起算して5年間保管しなければならない。

（その他）

第18条 この要綱に定めるもののほか、助成金の交付に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

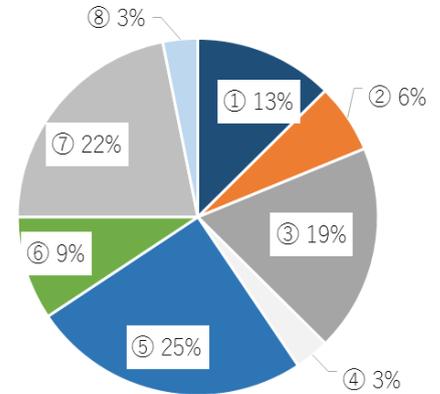
この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

平成 30 年度活動発表会 【一般来場者アンケート結果】

アンケート回答数：27 人

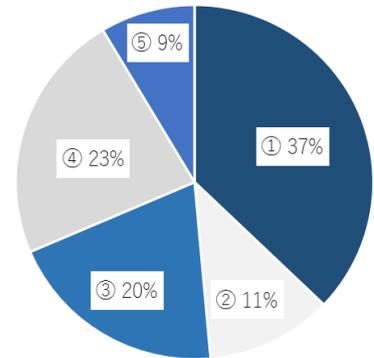
問 1 活動発表会について何で（どこで）知りましたか。（複数回答）

- ① 市ホームページ
- ② あかるいまち
- ③ こどもファンド通信
- ④ フェイスブック
- ⑤ 活動団体、審査員からのお知らせ
- ⑥ 学校からのお知らせ
- ⑦ 知人・友人からの紹介
- ⑧ その他



問 2 活動発表会に来た目的は何ですか。（複数回答）

- ① 応募した子どもの関係者であるため
- ② 子ども審査員の関係者であるため
- ③ 子どもの活動のことに興味があるため
- ④ まちづくりに興味があるため
- ⑤ その他



問 3 活動発表会についてどのような印象を持ちましたか。また、進め方についてご意見をお聞かせください。

- ・子どもがいきいきと発表していると感じた。
- ・長時間になるので、「よほど興味がある人が関係者でないと、なかなか会場に来てもらえないであろう」というのが難点か？
- ・子どもたちが地域のために自分たちのできることを考え、実践していく。これは今の子どもたちに求められている力であり、また社会に開かれた教育課程を実現する取り組みであるとも言える。このような機会を学校がどう活かし、子どもたちの可能性をどう伸ばしていくかを考えると、「学校と地域がどう協働しながら子どもを育てていくのか」という体制が問われている。
- ・どの活動も素晴らしかった。子ども達が地域を盛り上げ、元気よく活動する姿はたのもしく、これからの高知にとっても大きな力となると思います。たくさん子どもたちが様々な経験をして、高知を大好きになってほしいと思う。
- ・今までよりも会場全体で考えている時間が多く、観覧席で聞いていて楽しめた。
- ・進行は例年より時間通りであり、発表会に関わる人たちの努力が感じられる会となった。また、発表の際の映像なども見やすく、発表の質が高まっているように感じられた。

- ・もう少しリハーサルをして進行具合を確かめれば、本番で詰まったり指示を出したりしなくてもよくなるのではないかと考える。
- ・初めてきましたが、どの団体さんも素晴らしく、子どもたちのパワーを感じうれしくなった。
- ・子ども達が自ら考えてまち（地域）を良くしていこうという思いが伝わる発表会。希望に溢れて、参加してよかった！
- ・真剣な顔ですごく良かったです。
- ・こども達の発表が各チームとも分かりやすく、とてもよかった。各チーム、工夫ができていて、チームワークもとれていたと思います。この経験を色んなことに活かしてほしい。
- ・発表に向けた準備・練習から非常によくできている団体、準備が不作かもしれないが発表のインパクトは小さいが取り組んでいる内容の有用度の高い団体など、色々だと感じた。
- ・学校学習とは異なり、地域との関わりの中で活動に取り組んでいる姿勢が非常によかった。
- ・これまでになかった横同士のつながりがみえた。活動団体のメンバーが多いということは、活動に興味を持った人が増えたということ。独りよがりじゃないということだと思う。
- ・会場（一般参加者）からの質問もあると良いのでは。
- ・AOYAGI 地域盛り上げ隊はとても素晴らしかった。「本当は大人がやらないといけないのに」と思ってしまった。
- ・グループワーク後の発表が特にいいと思った。今後の活動へのヒントがあり、各団体の進化が楽しみです。

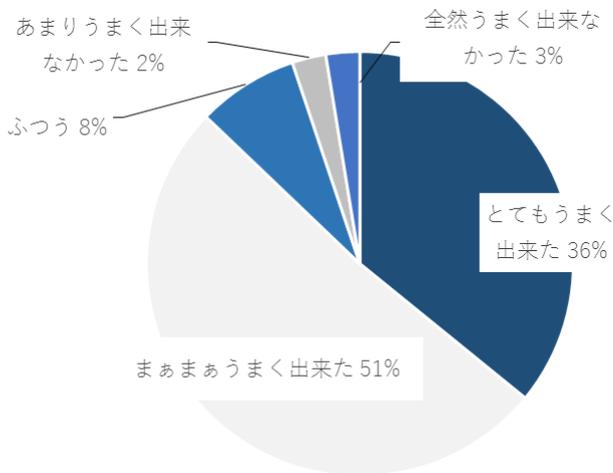
問4 こうちこどもファンド制度について、ご意見をお聞かせください。

- ・大人ではなく子どもがやってみたいことに対する支援は難しいことだとは思いますが、素晴らしい制度だと感じる。
- ・自分たちが暮らすまちの課題を自分たちで解決するという事は、大事な事。自治民主主義の基盤であると思うし、子どもたちがその実感を持てる貴重な機会を提供できる重要な制度だと思う。
- ・初めて参加したが、これからの学校教育において、子どもに求められる力を育成するために、最適な場であると知った。地域のために役立てるという満足感・達成感を味わえると同時に、子どもたちの表現力を伸ばすことのできる取り組みを広げてほしいと思います。子どもは地域の宝。
- ・助成終了後の活動支援や、その他OB団体が今どうなっているか知りたい。
- ・非常にすばらしい制度であるが、学校単位以外での団体募集に力を入れなければならないと感じた。
- ・とても良い制度なので、もう少し広まってほしいです。まだまだ知らない人も多いので、一度でも参加してもらえれば、子ども達のすばらしい取組等も分かってもらえると思う。また、成果物（レシピや新聞等）を各自治会で回覧してもらってはどうか？
- ・地域や学校活動等において、こどもファンド制度はとてもありがたいです。活動を続け広げていくために、今後も続けていただければありがたいです。
- ・予算枠をもう少し柔軟にしてほしい。活動の幅が広がるかもしれない。

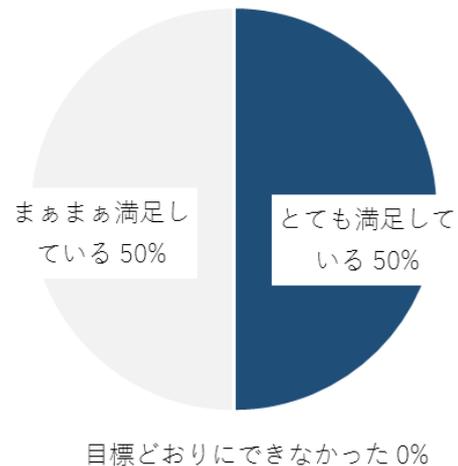
平成 30 年度活動発表会 【発表団体向けアンケート結果（対象：子ども）】

アンケート回答数：39 人

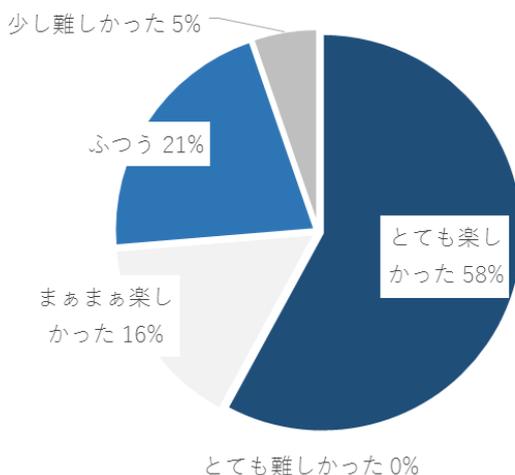
問 1 発表はうまくできましたか。



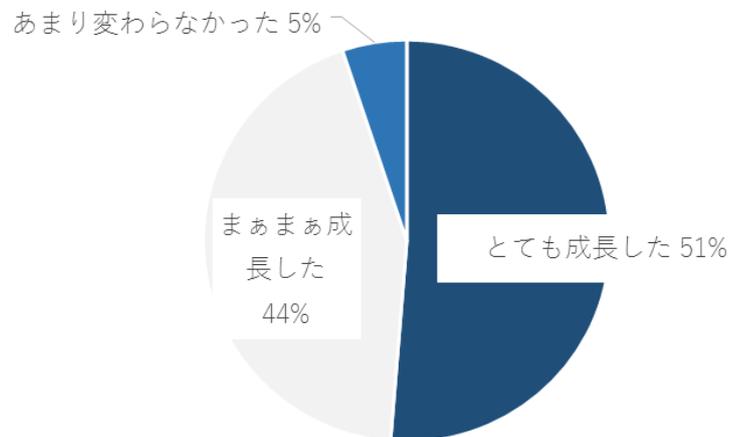
問 2 活動を終えた今の気持ちにあてはまるものは。



問 3 グループワークをやってみて、どう感じましたか？



問 4 活動をとおして自分が成長したと感じますか。



問 5 こどもファンドで活動した感想や、今日の発表会の感想を自由に書いてください。

- ・自分たちの活動に活かせるようなイベントなどがあったので、どんどん取り入れて、地域を良くしていきたい。
- ・たくさんの人にどうやって伝えるかを考えるのが難しかった。活動を 1 回だけじゃなくて、継続していくのも大事だと思った。今日はたくさんの団体と協力したらという意見が多かったので、ぜひやってみたいと思った。

- ・自分達の活動を他の人達に伝えられる場があるというのが知れてよかった。
- ・自分たちで伝え、行動する機会というのはすごく貴重なことであり、なかなかないものなので今回応募してよかった。そして、これを中学校の行事としてつなげることができたなら、私たち生徒会がやってきたことも良かったことになるし、地域の方との関わりも増えるので、中学校がもっと良くなると思う。今回のこどもファンドに参加し、良かったと感じている。
- ・他のグループの発表を聞いて、たくさんのアイデアを知って、自分たちの活動への感想も聞くこともできた。また、来年度の活動でどのような工夫をすべきかについても考えることができ、このような場があることでたくさんの方との交流もできて良かった。
- ・ほかの団体の発表は分かりやすいものばかりだったので、自分たちもそういうものを取り入れてみるといいと思った。今までの活動はみんなと協力して楽しくできて、良かったと思った。
- ・初めてこどもファンドの活動をして、楽しかったことやしんどかったこともあって、いい経験になった。心配なこともあったけれど、中学1年生の人たちや地域の人に手伝ってもらって、うまくいくことができた。
- ・大人数の前で発表するのはすごくドキドキして怖かったけど、やりきった後は嬉しさを感じた。
- ・活動したことによって、地域の知らないところをたくさん知ることができた。
- ・有用植物というのは聞いたことがなかったので、なかなか生えていないすごい植物だと思っていたが、本当はとても身近にあって、自分達が「雑草」と呼んでいる植物も含まれていることを知った。災害がきた時にも食料や薬として使うことができるので、たくさん覚えて役立てたいと思う。
- ・2回目の活動も楽しくできた。また参加したい。
- ・それぞれのチームによってさまざまな発表の仕方があり、おもしろかった。
- ・劇みたいに発表すれば、笑顔が増えるなどと思った。こどもファンドに協力してもらったことを感謝しています。
- ・今日の発表会では、他団体の発表を聞いて、自分たちに活かせるような事を考えることでできた。その中で、他の団体と協力して活動できそうなことを考えることが活動の幅を広げることにつながると思った。
- ・会場の中がとても暑かった。
- ・他の団体と一緒に、1つの活動をするというアイデアが良いと思った。
- ・発表会を時間通りに進めて欲しかった。2・3分遅かった。会場にいくつかある時計の時間が全て同じでない。
- ・学校によってその地域の特色をいかした活動が出来ていて良かった。自分達の学校でも他の学校の活動をマネしていきたい。
- ・どの団体も地域とのつながりや、防災の方法について紹介しており、南海トラフ大地震が起こるとされている高知では、防災がとても大切だと再確認できた。
- ・とても緊張した。それぞれの団体の発表を聞いて、参考になることがあり、勉強になった。このような活動を活用したい。受賞してうれしかった。
- ・人として、一回り成長できた。地域との関わりや防災など、今の社会に必要なことを身につけることができた。発表会は、終了時刻はきちんと守って欲しい。

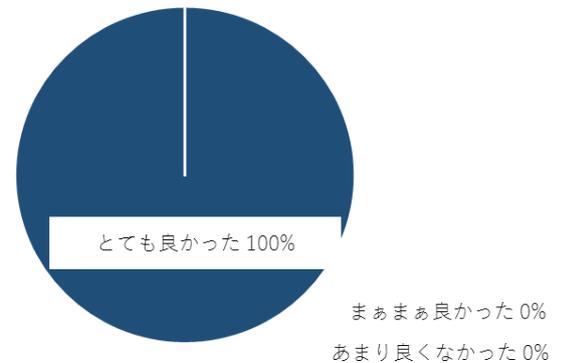
- ・各団体が様々な取り組みや活動をされていて、とても楽しめたし、「自分達もやってみよう！」と思えた。「もっと高知をよりよい所にしたい！」と思った。
- ・すごく緊張したけど、各団体の色々な活動を見聞きし、おもしろかった。たくさん考えさせられた。
- ・いやなこともあったけど、色々楽しいことがありました。プレゼンが楽しかったです。

平成 30 年度活動審査会【発表団体向けアンケート（対象：大人サポーター）】

アンケート回答数：4 人

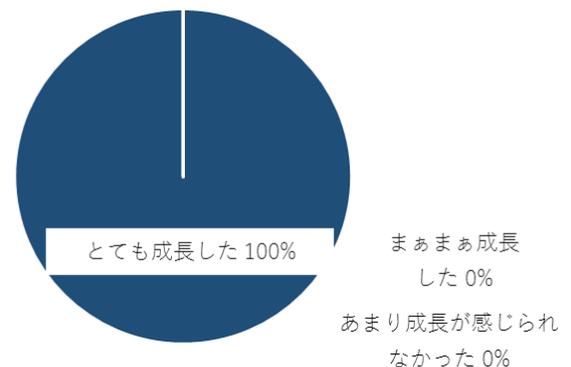
問1 子どもたちの発表はどうでしたか。

- ・ただ発表するだけでなく、これからの自分たちの活動に活かそうな事について考える場面があり、とても有意義な会だったと思う。
- ・毎年どんどん交流が広がっている。この広がりが素晴らしいと感じるとともに、次のステップアップを考えていきたいと思った。
- ・それぞれの活動報告がわかりやすく良い発表だった。
- ・昨年同様、発表のみならずグループ活動(交流)もありそれぞれの意見を交流させることができよかったと思う。



問2 今回の活動をとおして子どもたちが成長したと感じますか。

- ・自分たちで考え行動すること、地域の方のつながり、コミュニケーションを積極的にとれるようになったことなど、こどもファンドの活動を通して、たくさんのことを学び成長させて頂いたと思う。
- ・子どもたちの自主的な意見や活動が回を重ねるたびに見られ、大人もうれしかった。
- ・実際に自分たちで地域へ出向き、インタビューやともに活動することで地域のさらなる発展を考えることができたと思う。
- ・活動の初期メンバーは、交流やコミュニケーションを通じてプレゼン力などもついてきて、4月からは立派な高校生になる。活動の中で地域の方に育てていただいた。



問3 こうちこどもファンドの制度についてご意見をお聞かせください。

- ・子どもたちの目線で自分たちのまちをよりよくしようとする取り組みが非常に有意義なものだと思う。来年度以降も活用させていただきたい。
- ・ベストパフォーマンス賞は会場の参加者数によって選ばれるのであれば、少し方向を考慮していくといいなと思った。
- ・今までたくさんの活動へご協力いただき、ありがとうございました。
- ・地域ぐるみで大人も子どもも「やろう」という人が集まるのが、一番有効なまちづくりではないかと考えている。

こども審査員事前研修会・事前審査会を6月10日(日)に開催します

今年度は、小学4年生から高校3年生までの合計9名が「こども審査員」に就任しました。6月17日(日)に開催する公開審査会において、大人審査員と一緒に、助成団体を決める公開審査を行います。

審査をする際に何を重要と考えるのか(審査項目)を、ワークショップ形式で話し合って決めます。また、審査項目の決定後は、実際に模擬審査を行い、審査会のプレ体験をします。研修会の後には、大人審査員と一緒に今年の応募団体に関する情報を共有する、事前審査会を行います。

事前研修会



「こどもファンド」の制度や趣旨を学び、審査項目を決定します。

模擬審査



翌週に迫った公開審査会のプレ体験をします。

事前審査会



こども審査員と大人審査員が応募団体に関する情報を共有します。

こどもファンドアドバイザーをご活用ください!



こどもファンドアドバイザー
畠中 洋行さん

こどもファンドアドバイザーの活用は、大きく分けて3段階あります。

1つ目は、ファンドへの応募を考えた時、どんなことをしたらいいかな?何から始めれば?といった相談に対し、一緒に考えを整理するサポート。2つ目は、応募した後、公開審査会において、どんな風にみんなの前で発表したら良いかを検討する際のサポート。3つ目は、実際に助成を受けて活動に取り組む中で、いろいろな悩みが出てきた際に、どうしたら良いか考える時のサポートを行います。

応募グループの皆さんがサポートを希望する場合はもちろん、「来年度はこうちこどもファンドに応募してみたいなあ」と考えている方もお気軽に地域コミュニティ推進課にご連絡ください。



皆様の善意をお寄せください

子どもたちへの応援の気持ちを、ぜひ寄附としてお寄せください。

寄附の手続きは簡単ですので、地域コミュニティ推進課までお気軽にご連絡ください。詳細はホームページでもご確認いただけます。なお、寄附金については税制上の優遇措置があります。

平成29年度にご寄附をいただいた皆様

企業・団体様

- 三愛石油カスタマーサービス株式会社
代表取締役 八田 聡子 様
- 株式会社 四国清掃工業
代表取締役 森国 勇 様

個人様

- 久川 憲四郎 様



28年度以前にご寄附をいただいた皆様は、地域コミュニティ推進課のホームページに掲載しております。

【発行元・問い合わせ先】

高知市地域コミュニティ推進課 (高知市鷹匠町2-1-43)
TEL: 088-823-9080
E-mail: kodomofund@city.kochi.lg.jp
URL: <http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/21/>

こどもファンドの情報を発信中!
こちらからぜひ「いいね」をお願いします。



こうちこどもファンド通信

編集・発行: 高知市地域コミュニティ推進課 (TEL: 088-823-9080)

公開審査会を6月17日(日)に開催します



『平成30年度公開審査会』

【日時】

平成30年6月17日(日) 13:30~17:00

※時間は目安です。進行状況により多少前後する場合があります。

【会場】

保健福祉センター 3階大会議室 (塩田町18番10号)

※駐車スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用の上、お越し下さい。

平成30年度の助成団体を決める「こうちこどもファンド公開審査会」を開催します。

審査は、応募グループの子どもたちのプレゼンテーションを受けて、公募等により選出された小学生・中学生及び高校生合計9名の「こども審査員」と7名の「大人審査員」が一緒に行い、審査員の協議も同じ会場で公開で行います。

応募グループの子どもたちは、「自分たちの住まわちを良くしていきたい!」と真剣に審査会に臨んでいます。公開審査会は、どなたでも自由にご覧いただけますので、会場へぜひ足をお運びいただき、そんな子どもたちを応援してあげてください。



平成30年度助成応募グループ (予定)

団体名	活動テーマ	団体名	活動テーマ
旭地区防災食プロジェクト	地域みんなの食事を守るんジャー	太平洋学園 コミュニティ協力隊	学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～避難所生活を皆で考えよう～
おおつっ子	満開の笑顔でつなぐおおつっ子	イック I K K U 絆コミュニティ	地域交流で作る一宮の絆
虹を見る子どもたちプロジェクト	虹を見る子どもたちプロジェクト	ナチュラル natural チーム	豊かな里山の四季の食材を発見し、久重のごちそうを広めよう!
アオヤギ AOYAGI 地域盛り上げ隊	過去の絶海池を取り戻し、地域の笑顔をよみがえらせよう!		

平成29年度 こうちこどもファンド活動発表会を開催しました

平成30年3月18日(日)13時30分から、高知市南部健康福祉センター2階大ホールにて、平成29年度に助成を受けた6団体が自分たちの活動成果の発表を行いました。当日は発表団体を含め、約100名の参加者が、活動を終えて成長した子どもたちの発表に、感心しながら聞き入っていました。



表彰団体が決定しました

参加団体や会場に来られた皆さんの投票により、表彰団体が決定しました。

【ベストパフォーマンス賞】

活動内容や発表会でのプレゼンテーションが一番良かったグループ(会場投票により決定)



高知市立久重小学校 6年生

【ベストピカッと賞】

活動の進め方や活動内容について、工夫や面白さが感じられたグループ(審査員投票により決定)



旭地区防災食プロジェクト

【ベストこどもファンド賞】

発表会でのプレゼンテーション、活動内容など、一番よかったと思うグループ(審査員投票により決定)



にじいろ発見隊

交流タイムで意見交換を行いました

各団体の発表や成果物を見て、他団体の活動のアイデアを自分達の活動に活かすことができないか考えて発表し、質問や意見交換を行いました。団体・審査員の間でたくさんのアイデアや質問が飛び交い、それぞれの活動について考えを深め合う時間になりました。



助成団体の活動を紹介します

南海ふれあい応援隊

～ふれあいで地域を元気にしよう～

地域の大人の方に講師になってもらい、スポーツ・遊び・野菜づくり・釣りなどの「ふれあい教室」という出前講座を企画し、夏休みを中心に開催しました。また、地域の食材を使った朝食を地域の方と一緒に作って食べる「ふれあい食堂」も開催しました。参加者にバッチを配るなど工夫し、地域の絆を深めるために活動しました。



旭地区防災食プロジェクト

～地いきのみんなの食事を守るんジャー～

旭小学校の中にある畑を使って、防災食(さつまいも)を栽培しました。台風の影響で作物が飛ばされそうになったこともありましたが、地域の人たちと協力して収穫ができました。また、「防災かまどべんち」を作って地域との交流会を開催したり、防災新聞を発行するなど、農作業や防災について学びながら、地域との交流を深めました。



にじいろ発見隊

～こども目線でやさしいまちをつくる～

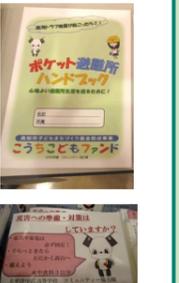
はりまや橋小学校区内の地域の方にインタビューをしながら、「おすすめ・ふしぎ・おもしろい・びっくり・おいしい・危ない・注目」の7つの視点でまちを探検し、集めた情報が一目で分かるマップを作成しました。完成したマップを使って、消防団や地域の方と一緒に町を歩いてみるなど、自分たちのまちをよりよくするために活動しました。



太平洋学園コミュニティー協力隊

～学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ《被災地から学ぶ防災・被災の対策》～

地震の被災地である熊本を視察し、防災に関するパネルを作製し、地域での防災活動を行いました。また、防災啓発のためにリーフレットやハンドブック、ポケットティッシュを作成し、地域で配布活動を行いました。3月には学んだことを地域の公民館で発表し、避難所運営ゲームを行うなど、地域との交流を行いました。



高知市立久重小学校 6年生

～国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう～

「防災」「国際交流」の2つのテーマで、地域の方と一緒に活動をしてきました。防災では、防災食試食会を開催したり、避難経路を記した逃げ地図を作って、それをもとに地域探検を行うなど活動しました。国際交流では、地域の食材を使った外国レシピの開発や、久重・外国の昔遊び体験交流を行いました。



一宮家おもてなし隊

～一宮家はひとつの大家族やき！！～

地域の絆を深めるために、日々のあいさつ運動・清掃活動・防災グッズの作製・高齢者施設での交流などの活動を行いました。今年度は大島青松園を訪問し、そこで暮らす人々の生き方など道徳について学ぶことができました。それを元に今後は「道徳カルタ」を作成し、地域の方と交流を行っていく予定です。



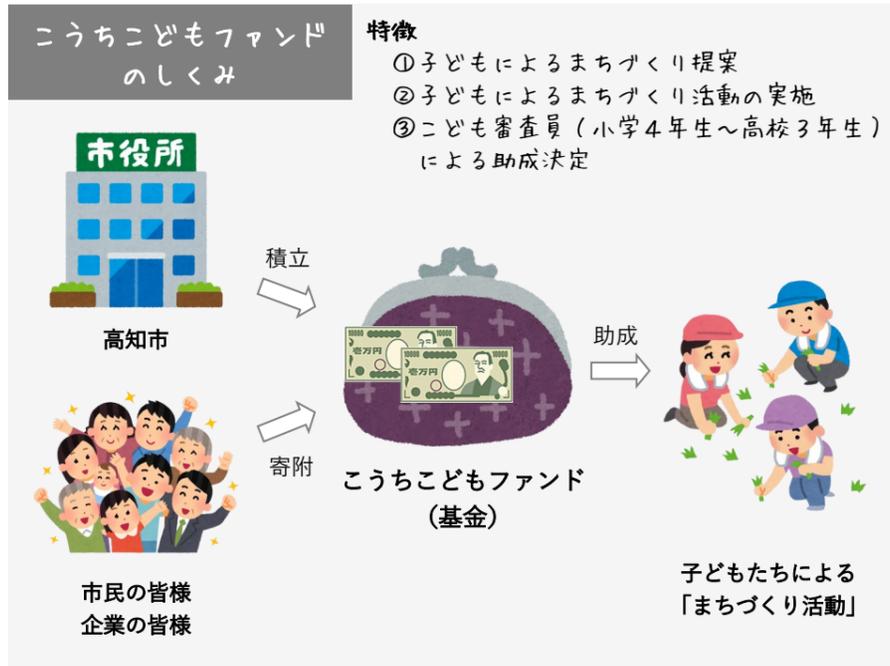
あなたも「こうちこどもファンド」で活動してみませんか？

こうちこどもファンドは、「子どもたちのアイデアで、住んでいる地域等をより魅力的で住みよいまちにするための活動」「子どもたちの活動によって、誰かが喜んでくれる活動」を応援するための制度です。

市では、これらの活動を応援するために、活動の必要経費に対する助成（上限20万円）や活動を進める上でのサポートを行っています。

応募対象は、①18歳以下の子どもが3人以上いること②子どもをサポートする大人が2人以上いること③高知市在住または在学中で、複数世帯で構成されていること、この3つの要件を満たす団体です。

あなたも、こうちこどもファンドでぜひ活動してみませんか。



こどもファンドアドバイザーをご活用ください！



こどもファンドアドバイザー 畠中 洋行さん

こどもファンドアドバイザーの活用は、大きく分けて3段階あります。

1つ目は、ファンドへの応募を考えた時、「どんなことをしたらいいかな？」「何から始めれば？」といった相談に対し、一緒に考えを整理するサポート。2つ目は、応募した後や公開審査会において、どんな風にみんなの前で発表したら良いかを検討する際のサポート。3つ目は、実際に助成を受けて活動に取り組む中で、いろいろな悩みが出てきた際にどうしたら良いか考える時のサポートです。

応募グループの皆さんがサポートを希望する場合はもちろん、「来年度はこうちこどもファンドに応募してみたい」と考えている方も、お気軽に地域コミュニティ推進課にご連絡ください。



皆様の善意をお寄せください



子どもたちへの応援の気持ちを、ぜひ寄附としてお寄せください。

寄附の手続きは簡単ですので、地域コミュニティ推進課までお気軽にご連絡ください。詳細はホームページでもご確認いただけます。なお、寄附金については税制上の優遇措置があります。

平成29年4月以降にご寄附をいただいた皆様 企業・団体様

- 三愛石油カスタマーサービス株式会社 代表取締役社長 八田 聡子 様
- 株式会社 四国清掃工業 代表取締役 森国 勇 様
- 個人様
- 久川 憲四郎 様

28年度以前にご寄附をいただいた皆様は、地域コミュニティ推進課のホームページに掲載しております。

ありがとう
ございました



こうちこどもファンド通信

編集・発行：高知市地域コミュニティ推進課 (TEL 088-823-9080)

こうちこどもファンド助成団体が決定しました！

平成30年度の助成団体を定める公開審査会において、応募全7団体の助成が決定しました。



応援してね♪

●平成30年度助成決定団体

団体名	活動テーマ	活動内容	助成額
おおつ子	満開の笑顔でつながれおおつ子	○アルミ缶回収を行い、お金と交換して地域へ車椅子等を寄贈 ○防災に関する知識を学び、「防災劇」として成果を発表 ○炊き出し訓練の開催	20万円
IKKU絆 コミュニティ	地域交流でつくる一宮の絆	○小学校・地域・高齢者施設等との交流 ○災害・人権に関する学習を実施 ○学習成果や交流の様子を新聞にまとめて発行	20万円
旭地区防災食 プロジェクト	みんなの命と食をこどもが守るん ジャー！	○防災食となる食物の栽培・収穫・調理を行い、レシピを作成 ○防災食として活用できる植物に関する学習を実施 ○防災新聞を発行	20万円
太平洋学園コミュ ニティー協力隊	学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～避難所生活を皆で考えよう～	○防災袋・防災袋付属の取扱説明書の作成 ○避難所運営疑似体験学習の実施 ○学校・地域に対する学習成果の発表	20万円
虹を見る子ども たちプロジェクト	虹を見る子どもたちプロジェクト～夢を叶えよう～	○子どもによる子どものためのイベント開催（飲食、マジック、音楽、フリーマーケット、消防車・パトカーなどの体験コーナー等）	20万円
A O Y A G I 地域盛り上げ隊	過去の絶海池を取り戻し、地域の笑顔をよみがえらせよう！	○絶海池に関する情報をまとめた新聞を発行 ○ゲーム形式による絶海池の一斉清掃	20万円
naturalチーム	豊かな里山の四季の食材を発見し、久重のごちそうを広めよう！	○久重地域に自生する野草の収穫・調理等を行い、災害に備えた有用植物のレシピを作成	20万円

●各団体の活動がスタートしました



①「旭地区防災食プロジェクト」が7月15日（日）に、畑で体験学習を実施しました。

②「naturalチーム」が7月16日（月・祝）に里山探検を行い、夏の野草を採取して、調理・試食しました。

※団体の活動状況は下記のこうちこどもファンドFacebookでも紹介していきますので、ぜひご覧下さい。



平成30年度

こうちこどもファンド公開審査会を開催しました

6月17日(日)、平成30年度の助成団体を定める公開審査会を開催し、応募全7団体の助成が決定しました。今年「食」「防災」「イベント」「地域交流」「清掃」などさまざまなテーマで、各団体から活動提案がありました。審査員の子供たちは、事前に決めた評価ポイントを基に各団体へ質問を行い、公開協議を経て、全体への助成を決定しました。審査会の詳細などをまとめた報告書は、地域コミュニティ推進課のホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。



応募団体① おおつっ子



応募団体② IKKU絆コミュニティ



応募団体③ 旭地区防災食プロジェクト



応募団体④ 太平洋学園コミュニティ協力隊



応募団体⑤ 虹を見る子どもたちプロジェクト



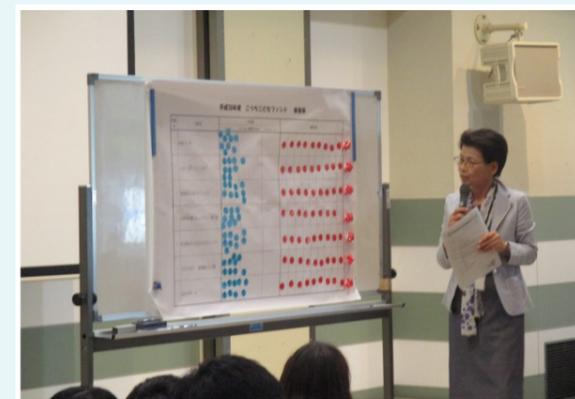
応募団体⑥ AOYAGI 地域盛り上げ隊



応募団体⑦ naturalチーム



▲各団体の発表後、卯月審査委員長の進行による公開協議を実施。



▲公開協議後、吉門副委員長による結果発表。見事、応募全7団体に助成が決定しました！



▲こども審査員・大人審査員・アドバイザー・サポーターなどの関係者で記念撮影。

こども審査員
(9名)



古谷委員



前田委員



増田委員



宇賀委員



森本委員



田部委員



吉本委員



松田委員



井上委員

平成31年度の活動団体を募集しています！



まちの誰かが喜ぶような、子どもたちのまちづくり活動を募集しています。

「どんな活動が対象になるかわからない」「活動の進め方がわからない」「やりたいことをどう形にしたらいかがわからない」など、少しでも疑問や興味を持たれた方は、お気軽に事務局までお問い合わせ下さい！

●応募対象（次の①～③の条件を全て満たす団体）

- ① 18歳までのメンバーが3人以上いること
- ② ①のメンバーが一つの家族（兄弟姉妹）だけでないこと
- ③ サポートしてくれる大人が2人以上いること

●活動期間

平成31年7月1日～平成32年2月29日

●助成金額

上限20万円（活動に必要な経費）

●申請締切

平成31年5月10日（金）（事務局必着）

※申請書類については、事務局までお問い合わせください。



応募説明会を開催します

●日時

平成31年4月14日（日）午前10時から

●場所

高知市市民活動サポートセンター会議室（鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階）

●お願い

参加ご希望の方は4月12日（金）までに、事務局までご連絡ください。なお、説明会会場は駐車場がありませんが、県庁前地下駐車場をご利用の場合、1時間無料になります。



平成30年4月以降にご寄附をいただいた皆様

※29年度以前にご寄附をいただいた皆様は、地域コミュニティ推進課のホームページに掲載しております。

企業・団体様

- 三愛石油カスタマーサービス株式会社
代表取締役社長 八田 聡子 様
- 株式会社 四国清掃工業
代表取締役 森国 勇 様
- 株式会社若竹まちづくり研究所
代表取締役 佐藤 八尋 様
- 有限会社舞高電設
代表取締役 山下 邦明 様
- 高知緑化建設株式会社
代表取締役 中尾 正 様
- 有限会社ヨシコー建設
取締役 田畑 喜幸 様
- 特定非営利活動法人こうち高齢者福祉事業団
理事長 武田 孝子 様
- 伊東電気有限会社
代表取締役 伊東 俊雄 様
- 紀和工業株式会社
代表取締役 安宅 正雄 様
- 株式会社永野基礎
代表取締役 永野 雅大 様
- 株式会社高知ビーフ
代表取締役 久末 忠文 様

株式会社タカチ測建

代表取締役 宮崎 玄教 様

株式会社高南メディカル

代表取締役 宮本 高憲 様

IDEAL設計

代表者 岡林 広一 様

株式会社オーエス・エンジニアリング

代表取締役 岡村 卓治 様

株式会社シンゲン

代表取締役 森本 和秀 様

昭栄設備工業株式会社

代表取締役 松井 晶久 様

株式会社西部技研

代表取締役 松森 懋 様

有限会社田部興業

代表取締役 田部 正生 様

有限会社ルート設計事務所

代表取締役 岡林 一雄 様

構営技術コンサルタント株式会社

代表取締役社長 吉田 幸男 様

株式会社総合企画設計

代表取締役 片岡 輝久 様

ほか1社

個人様

●久川 憲四郎 様

●梶原 太一 様

ありがとう
ごさいま



皆様の善意をお寄せください

子どもたちへの応援の気持ちを、ぜひ寄附としてお寄せください。

寄附の手続きは簡単ですので、地域コミュニティ推進課までお気軽にご連絡ください。詳細はホームページでもご確認いただけます。なお、寄附金については税制上の優遇措置があります。



こうちこどもファンド 通信

編集・発行：高知市地域コミュニティ推進課（TEL/088-823-9080）

活動発表会を3月17日（日）に開催します！



『平成30年度活動発表会』

【日時】平成31年3月17日（日）

12時半～13時（制度説明会）

13時半～17時（活動発表会）

※説明会参加希望の方は、3月11日（月）までにご連絡ください。

【会場】南部健康福祉センター

2階大ホール（百石町3-1-30）

※駐車スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用の上、お越しください。



「こうちこどもファンド」の助成を受けて活動した子どもたちが、今年度の活動内容を発表する活動発表会を開催します。当日は、それぞれの団体の活動を振り返る交流会や、活動団体に対する表彰を行います。発表会はどなたでも自由にご覧いただけますので、ぜひ子どもたちの応援も含めて、ご来場ください。

また、発表会開催前には「こうちこどもファンド」の制度内容や活動事例の紹介などを説明する時間を設けます。ぜひ、会場へ足をお運びいただき、子どもたちの発表や交流とあわせてご参加ください！

STEP1 活動成果発表



活動団体の子どもたちが、3～5分以内で活動成果を発表し、審査員との質疑応答や意見交換を行います。

STEP2 交流会開催



「他団体の活動アイデアを自分達の活動に活かすことができないか」等の話し合い、発表を通じて団体間での交流を行います。

STEP3 表彰団体決定



審査員が活動・発表内容を判断して投票を行い、表彰団体を決定します。また、活動団体・一般来場者も投票を行います。

「第8期こども審査員」を募集しています（2月28日（木）締切）



こどもファンドに応募した子どもたちの活動に対して、助成するかどうかを審査する役割を担うのが「こども審査員」です。あなたもこども審査員になって、皆の活動を応援してみませんか？

応募申請書は、市内の小・中学校、高校へ配布しています。また、地域コミュニティ推進課のホームページでもご覧いただけます。

応募条件

高知市在住または市内の学校に通学している小学4年生から高校3年生の方

活動期間

平成31年4月1日～平成32年3月31日

活動内容

- ①事前研修会・事前審査会への参加（6月）
- ②公開審査会への参加（6月）
- ③活動発表会への参加（3月）

平成30年度 「ちょっとだけ」 助成団体の活動をご紹介します

平成30年度は、公開審査会で応募全7団体の助成が決定しました。各団体は公開審査会以降、「食」「防災」「イベント」「地域交流」「清掃」など、さまざまなテーマで活動を行っています。今回は、事務局が取材した各団体の活動風景を、ほんの少しだけご紹介します！

なお、平成31年3月17日(日)に開催する活動発表会(1ページ参照)では、子どもたち自身が30年度の活動成果を発表します。ぜひ会場へお立ち寄りいただき、子どもたちのまちづくりに対する熱意を感じてください。



おおつっ子

『満開の笑顔でつながれおおつっ子』



これまでアルミ缶を回収・換金し、地域の福祉施設に車イス等を寄贈する活動を行ってきましたが、30年度は新たな取り組みとして、「防災劇」を企画しました。大津中学校生徒会のキャラクター「おおつっ子ちゃん」が、「地震博士」「ひなんちゃん」と一緒に防災について学んでいくというストーリーで、大津文化祭や公民館などで防災劇を披露しました。

太平洋学園コミュニティ協力隊

『学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～避難所生活を皆で考えよう～』



避難生活を想定した1泊2日の「防災キャンプ」を太平洋学園高校で行いました。避難所での実体験を基にした事例を学び、体育館で防災食の調理等を行いました。夜は段ボールの寝床で眠り、避難所生活を体験。この防災キャンプで学んだことなどをまとめて、学園祭で広報したり、地域に向けて発表をしたりするなど、防災啓発に関する活動を行いました。

AOYAGI 地域盛り上げ隊

『過去の絶海池を取り戻し、地域の笑顔をよみがえらせよう！』



青柳中学校区内にある絶海池をきれいにするため、「第1回絶海池クリーン大作戦！」と銘打って、一斉清掃を行いました。集めたごみの量を競うゲーム形式で清掃を実施し、約150人の生徒・先生・地域の方々でたくさんのゴミを集めました。また、事前に地域の方に取材をして、絶海池の歴史などを紹介する「絶海池新聞」を発行しました。

I K K U 絆コミュニティ

『地域交流でつくる一宮の絆』



災害時などに地域の皆で助け合うための強い絆を作ろうと、一宮地域の高齢者施設やお祭りなどで、ボランティア活動を行っています。また国立療養所大島青松園を訪問し、ハンセン病の歴史を知ることで、「学んだことを伝える」大切さを感じました。新聞作成や発表会の開催など、学習・活動内容を発信して、一宮中学校のイメージをもっと良くしていきたいと考えています。

旭地区防災食プロジェクト

『みんなの命と食を子どもが守るんジャー！』



29年度から旭小学校の畑を使って防災食(野菜)を栽培し、農作業・防災について学びながら、地域との交流を深めています。30年度は、アルミ缶を使ったご飯炊き、畑の野菜を使ったピザづくり、さつま芋・大根・かぶ・小松菜・チンゲンサイ等の収穫作業を体験しました。防災食を広めることによって、防災意識を高めるために活動を行っています。

虹を見る子どもたちプロジェクト

『虹を見る子どもたちプロジェクト
～夢を叶えよう～』



「子どもたちに夢の大切さを知ってもらい、夢を持ってもらえる」ような活動を行うため、11月に「こじゃんと広場」で1日限定イベントを開催しました。フリーマーケットやプレイブースなどを用意し、司会進行やステージでの演奏など、子どもが主体となってイベントを運営。最後は手話バージョンの「銀河鉄道999」を会場全員で歌い、フィナーレを迎えました。

naturalチーム

『豊かな里山の四季の食材を発見し、
久重のごちそうを広めよう！』



久重地域に自生する野草の収穫・調理等を行い、有用植物(食用・薬用などさまざまな用途で人の役に立っている植物)のレシピを作成しています。これまで、タンポポ・ノカンゾウ・ムカゴ・アケビなどを採取し、地域の方に教わりながら、調理をしました。また、地域行事に参加して七草粥を試食するなど、里山の魅力をたくさん感じながら、活動をしています。

「こうちこどもファンド活動」募集要項



まちの誰かが喜ぶようなこどもたちのまちづくり活動を募集します!!

応募の受付期間	審査の方法
平成31年5月10日(金)※当日消印有効	書類審査：事務局が申請書類を確認します。 公開審査：こども審査員と大人審査員が皆さんの説明（公開プレゼンテーション）を聞き、質問して審査します。
対象になる活動期間	公開審査会の日時
平成31年7月1日(月)～平成32年2月28日(金)	平成31年6月16日(日)（予定）
助成の金額	発表会
1事業あたり20万円まで	平成32年3月下旬（予定） ※活動成果を発表し、他団体との交流をします。
申請書類	応募団体の資格
事務局から郵送しますので、ご連絡ください。 2月以降には、地域のふれあいセンター等にも配布します。なお、事務局のホームページからもダウンロードできます。	次の①～③の条件を全て満たす団体が対象となります。 ① 18歳までのメンバーが3人以上いること ② ①のメンバーが一つの家族（兄弟姉妹）だけでないこと ③ サポートしてくれる大人が2人以上いること

「こどもファンドってどんなもの？」
「どんな活動が対象になるの？」
「興味はあるけど、活動の進め方が分からない」
「やりたいことをどう形にしたらいいか分からない」



少しでもこのような興味を持たれた方は、お気軽に事務局までお問い合わせください！
また、下記の応募説明会へもぜひご参加ください！

応募説明会を開催します



- 日 時 平成31年4月14日(日) 午前10時から（1時間程度）
- 場 所 高知市市民活動サポートセンター会議室（高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階）
- お願い 参加ご希望の方は4月12日（金）までに、事務局までご連絡ください。
説明会会場は駐車場がありませんが、県庁前地下駐車場をご利用の場合、1時間無料になります。

平成30年度活動発表会の会場でも、応募説明会を実施します！

平成30年度に助成を受けて活動した子どもたちの活動発表会を開催します。発表会の前に応募説明を行いますので、ぜひあわせてご参加ください！
なお、参加希望の方は3月11日(月)までに事務局にご連絡ください。

- 日時：平成31年3月17日(日)12:30～13:00
（活動発表会は13:30～17:00）
- 場所：高知市南部健康福祉センター（百石町3-1-30）



説明会や発表会以外の日程でも出張説明ができます。お気軽にご相談ください。



【発行元・問い合わせ先】平成30年12月発行

高知市市民協働部 地域コミュニティ推進課（〒780-8571 高知市鷹匠町2-1-43）
TEL：088-823-9080 FAX 088-824-9794 E-mail：kodomofund@city.kochi.lg.jp
URL：http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/21/
こどもファンドの情報をフェイスブックで発信しています！右のQRコードから、ぜひ「いいね」をお願いします。



平成31年度

こうちこどもファンド
募集案内

「第8期こども審査員」募集

子どもから応募があった活動について、助成するかどうかを子ども目線で審査する！
⇒詳しくは3ページへ



「活動」募集

自分たちのまちが良くなるようにやりたいことを考えて実践する！
⇒詳しくは4ページへ



第8期子ども審査員 応募用紙

詳しくは3ページへ

平成31年4月1日時点でご記入ください。

ふりがな			性別 ※該当する方に○をつけてください。	男	・	女
名前						
住所	〒					
生年月日	平成	年	月	日	(歳)
学校名・学年			電話番号	・ 自宅電話番号		
	(年生)		
応募してみたいと思った理由	あなたが、「子ども審査員をやってみたい」と思った理由を書いてください。					
自己PR	高知がどんなまちになってほしいか、自分だったらどんな活動をしてみたいかなど、なんでも自由に書いてください。					
保護者の同意	こうちこどもファンド「第8期子ども審査員」に応募および就任することについて同意します。					
	平成	年	月	日	署名:	印
※保護者の方がご記入ください。	保護者連絡先(TEL):		応募者との続柄:			

※ご記入の上、事務局まで直接お持ちいただくか、郵送またはFAXにてお送りください。
 ※応募理由や自己PR記入欄に書ききれない場合は、別紙に記入していただいても構いません。

「お問い合わせ・お申し込み先」
 高知市市民協働部 地域コミュニティ推進課
 (お問い合わせ時間 8:30~17:15 土・日・祝を除く)
 〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43
 TEL: 088-823-9080 FAX 088-824-9794

「こうちこどもファンド」とは…
 こどもたちが、自分たちのアイデアで、自分たちの住む、または通学や通勤する地域を、より魅力的な住み良い「まち」にするための活動(まちづくり活動)を応援する仕組みのことです。



第8期子ども審査員 募集要項

子ども審査員の役割は、応募してきたグループの活動に助成(お金を出して応援)するかどうかを、同世代の目線で審査することです。

お願いすること

- ①事前研修会・事前審査会への参加 (平成31年6月9日(日)開催予定)**
 公開審査会で、どこをポイントとして審査するのかを、子ども審査員のみなさんと一緒に話し合いながら決めます。その後、公開審査会のリハーサルをして、審査の流れを体験します。また、実際に応募があった活動の内容を、大人審査員と一緒に話し合いながら確認します。
- ②公開審査会への参加 (平成31年6月16日(日)開催予定)**
 まず、応募してきたグループから、取り組みたい活動についての発表を聞きます。次に、それぞれのグループに対して、くわしく聞きたいことなどについて質問し、助成するかどうかを、大人審査員と一緒に審査して決めます。
- ③活動発表会への参加 (平成32年3月下旬開催予定)**
 助成を受けたグループから、活動成果の発表を聞いた後、意見や感想、メッセージなどを出し合いながら交流会を行います。

切り取り線

応募について

- 1. 応募資格**
 - (1) 平成31年4月1日時点で高知市に住んでいる、または市内の学校に通っている方
 - (2) 平成31年4月1日時点で小学4年生から高校3年生の方
- 2. 応募締め切り**
平成31年2月28日(木) ※消印有効
 「第8期子ども審査員 応募用紙」によりご応募ください。
 (2ページ目を切り取り、お使いください。)
- 3. 応募に関する注意事項**
 - (1) 応募用紙の提出をもって、募集要項の記載内容を承諾したものとみなします。
 - (2) 応募用紙は原則お返しいたしません。
 - (3) 公開審査会等の写真を、広報紙などへ掲載する場合があります。
- 4. 子ども審査員の面接**
 応募用紙の記載内容をもとに、大人審査員による面接を行います。
 - (1) 面接日: 平成31年3月17日(日) 午前10時30分から(予定) ※確定次第、応募者に通知します。
 - (2) 面接会場: 高知市南部健康福祉センター2階 教養室A (高知市百石町3丁目1-30)



【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43

TEL / 088-823-9080

FAX / 088-824-9794

<令和元年8月発行>

こうちこどもファンドへご寄附をいただいた皆さま

令和元年8月1日時点

企業・団体（50音順）	寄附年度
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社（ゆにぞんスマイルクラブ）	H30
I D E A L 設計 様	H30
一般財団法人高銀地域経済振興財団 様	H26
伊東電気有限会社 様	H30
医療法人仁栄会 島津病院 様	H25
和建设株式会社 様	H25
株式会社オーエス・エンジニアリング 様	H30
株式会社片岡電気工事 様	H24
株式会社岸之上工務店 様	H25
株式会社公職研 様	H25
株式会社高知タマモ 様	H24
株式会社高知ビーフ 様	H30
株式会社高南メディカル 様	H30
株式会社四国清掃工業 様	H24・26・28・29・30
株式会社四国相互手形センター 様	H25
株式会社四国ポンプセンター 様	H24
株式会社シンゲン 様	H30
株式会社シンテック 様	H24
株式会社西部技研 様	H30
株式会社セイミツ 様	H24
株式会社総合企画設計 様	H30
株式会社双電社 様	H24
株式会社タカチ測建 様	H30
株式会社永野基礎 様	H30
株式会社豊栄電気工事 様	H27
株式会社松井ビル 様	H24・25
株式会社若竹まちづくり研究所 様	H30
紀和工業株式会社 様	H30
構管技術コンサルタント株式会社 様	H30
高知黒潮ライオンズクラブ 様	H25・26
高知市職員労働組合 様	H24
高知市まちづくり未来塾 様	H26
高知市旅館ホテル協同組合 様	H24
高知スタンダード石油株式会社 様	H24
高知県青年読売会 様	H26
高知南ライオンズクラブ 様	H24
高知民謡クラブ 様	H26
高知緑化建設株式会社 様	H30
国際ロータリー第2670地区 様	H25
三愛石油カスタマーサービス株式会社 様	H25・26・27・28・29・30、R1
三共工業有限会社 様	H24
昭栄設備工業株式会社 様	H30
太平産業株式会社 様	H24・28
東京テクニカサービス株式会社 トコモショップ愛宕店 様	H24・25・26
特定非営利活動法人こうち高齢者福祉事業団 様	H30
特定非営利活動法人高知市こども劇場 土佐チル 様	H30
西村商工株式会社 様	H24
パシフィックソフトウェア開発株式会社 様	H24
福留開発株式会社 様	H24・30
丸仁商事株式会社 様	H24
有限会社大石電機 様	H24・25・28
有限会社寿運送	R1
有限会社田部興業 様	H30
有限会社舞高電設 様	H30
有限会社ヨシコー建設 様	H30
有限会社ルート設計事務所 様	H30
よこせと・まちづくり市民会議 様	H26
読売センター高知長浜 様	H26
依光内科クリニック 様	H25
ほか4社	

個人（50音順）	寄附年度
梶原 太一 様	H26・30
田所 伸雄 様	H24
久川 憲四郎 様	H25・27・28・29・30、R1
山本 吾一 様	H27
ほか6名	

多くの善意をお寄せいただき、ありがとうございます。